

「信州オーブンドアスクール（仮称）」創造会議の設置について

義務教育課・心の支援課

令和5年度 夜間中学校設置検討会議

令和5年度 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会

概要

夜間中学設置検討会議

- (1)夜間中学を必要としている方々のニーズに応え夜間中学の設置準備を進める。
- (2)多様なニーズを包括した学校についても検討し、夜間中学と学びの多様化学校との併設も含め、インクルーシブでフレキシブルな学びの場を創造する。
- (3)ニーズの高い地域、設置を検討している市町村と共に協議を進める。

不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会

- (1)インクルーシブでフレキシブルな「新たな学びの場」を創造していくことが重要である。
- (2)学びの多様化学校を設置検討の意向がある市町村と共に「新たな学びの場」の設置検討が必要である。
- (3)当事者、支援者の思い・願いや意見も取り入れながら、「新たな学びの場」を創造していくことが重要である。

夜間中学と学びの多様化学校との併設も含め、インクルーシブでフレキシブルな新たな学びの場について、検討会議を設置し検討する

令和6年度

「信州オーブンドアスクール（仮称）」創造会議を設置

【設置目的】

- 年齢、国籍、社会的立場などに関係なく、誰にでも開かれ、多様な人たちが共に学び、共に成長する、インクルーシブでフレキシブルな学びの場「信州オーブンドアスクール（仮称）」の設置に向け、具体的な制度設計を行う

【主な議題】

- 「夜間中学」及び「学びの多様化学校」併設設置について
 - ・既存制度の有効活用
 - ・「一人ひとりに合った学びの実践校」に向けた実践（認知・発達の特性に応じた学び、自由進度学習、DXなど）を最大限に生かした学校づくり など
- 学習環境・教育課程のあり方について
 - ・異年齢集団（学齢経過者と学齢期の不登校児童生徒等）による学び
 - ・外国籍又は外国由来の方の学び
 - ・教育課程の編成 など
- 設置主体・設置形態・教職員配置について
 - ・設置場所、設置形態（本校、分校、分教室）
 - ・スタッフの配置（教員、養護教諭、SC、ボランティア、支援者 など）
 - ・施設整備、国の補助制度の活用、費用負担 など

【会議スケジュール】

- 4月～7月に4回程度の会議を予定
(第4回終了後は、設置自治体との個別協議を進める)

【会議構成員（想定）】

- 学識経験者 : 2名程度
- 支援者・関係者 : 外国人支援者、不登校支援者 等 4名程度
- 市町村 : 設置を検討している市町村教育委員会教育長 5名程度
- 県 : 長野県教育委員会事務局教育次長
- アドバイザー : 学びの多様化学校マイスター、県外先進校校長 等
- オブザーバー : 文部科学省担当者、市町村教育委員会担当課長 等
- 事務局 : 義務教育課・心の支援課・学びの改革支援課
(議題により庁内関係課が参加)

長野県夜間中学設置に係る基本的な考え方（報告書）

（令和6年3月）

長野県教育委員会事務局

義務教育課

目次

1 夜間中学設置の現状	1
(1) 夜間中学の役割	
(2) 国の動向	
(3) 他県の状況	
2 本県における夜間中学設置の必要性	3
(1) 本県の現状	
(2) 令和5年度ニーズ調査の結果	
①調査の概要	
②調査結果	
③結果分析	
3 夜間中学設置検討会議の意見要旨	11
(1) ニーズ調査結果について	
(2) 長野県夜間中学の理想像	
(3) 今後の設置検討に向けて	
4 新たな学びの場 設置に向けての市町村アンケート結果	12
5 長野県夜間中学設置に係る基本的な考え方	13
(資料) 長野県内における夜間中学設置ニーズ調査業務調査結果報告書 新たな学びの場設置に向けての市町村アンケート結果	

1 夜間中学設置の現状

(1) 夜間中学の役割

夜間中学は、戦後の日本社会の混乱の中で、生活のために働かなければならず、学校に通えない子どもたちに対して学ぶ場を提供するため昭和 22 年大阪に開校された。

その後、一時期、全国での生徒数が 5,000 人を超えるようになったが、社会情勢の変化や就学援助の充実によって生徒数、学校数ともに減少した。

近年では、就労のために来日した外国人の子どものうち、学齢を超過した者の受け入れ先となり、日本国籍を有しない生徒が、全体の 8 割に達している。

また、文部科学省は、「義務教育修了者が中学校夜間学級への再入学を希望した場合の対応に関する考え方について」（平成 27 年 7 月 30 日付け 27 初初企第 15 号通知）において、義務教育修了者が中学校夜間学級への再入学を希望した場合、一定の要件の下で、受け入れ可能とすることを、また、「不登校児童生徒への支援の在り方について」（令和元年 10 月 25 日付け 元文科初第 698 号通知）において、不登校児童生徒が近年増加傾向にある現状を踏まえ、本人の希望を尊重した上で、在籍校に籍を残したまま、教育支援センター、フリースクール等民間施設と同様に、夜間中学において受け入れることも可能とすることを示し、夜間中学は、不登校や病気等により形式的に卒業した生徒も含め、義務教育を受ける機会を実質的に保障するための新たな学びの場として期待されている。

(2) 国の動向

【すべての都道府県に少なくとも一つの夜間中学を設置する方針】

○義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律

(平成 29 年 2 月 14 日施行)

第 14 条 地方公共団体は、学齢期を経過した者（その者の満六歳に達した日の翌日以後における最初の学年の初めから満十五歳に達した日の属する学年の終わりまでの期間を経過した者をいう。次条第二項第三号において同じ。）であって学校における就学の機会が提供されなかったもののうちその機会の提供を希望する者が多く存在することを踏まえ、夜間その他特別な時間において授業を行う学校における就学の機会の提供その他の必要な措置を講ずるものとする。

○衆議院予算委員会（令和 3 年 1 月 25 日）菅内閣総理大臣答弁

「今後 5 年間で全ての都道府県・指定都市に夜間中学校が少なくとも 1 つ設置される、このことを目指し、全国知事会や指定都市市長会の協力を得て、取り組んでいきたい」

【国庫補助による夜間中学の設置促進】

○夜間中学の設置促進・充実事業により、新設準備の2年間及び開設後の3年間の最大5か年を補助の対象とする。 他

①夜間中学新設準備・運営支援（補助事業）

新設準備 2年間 : 補助率 1/3 ※上限 400 万円

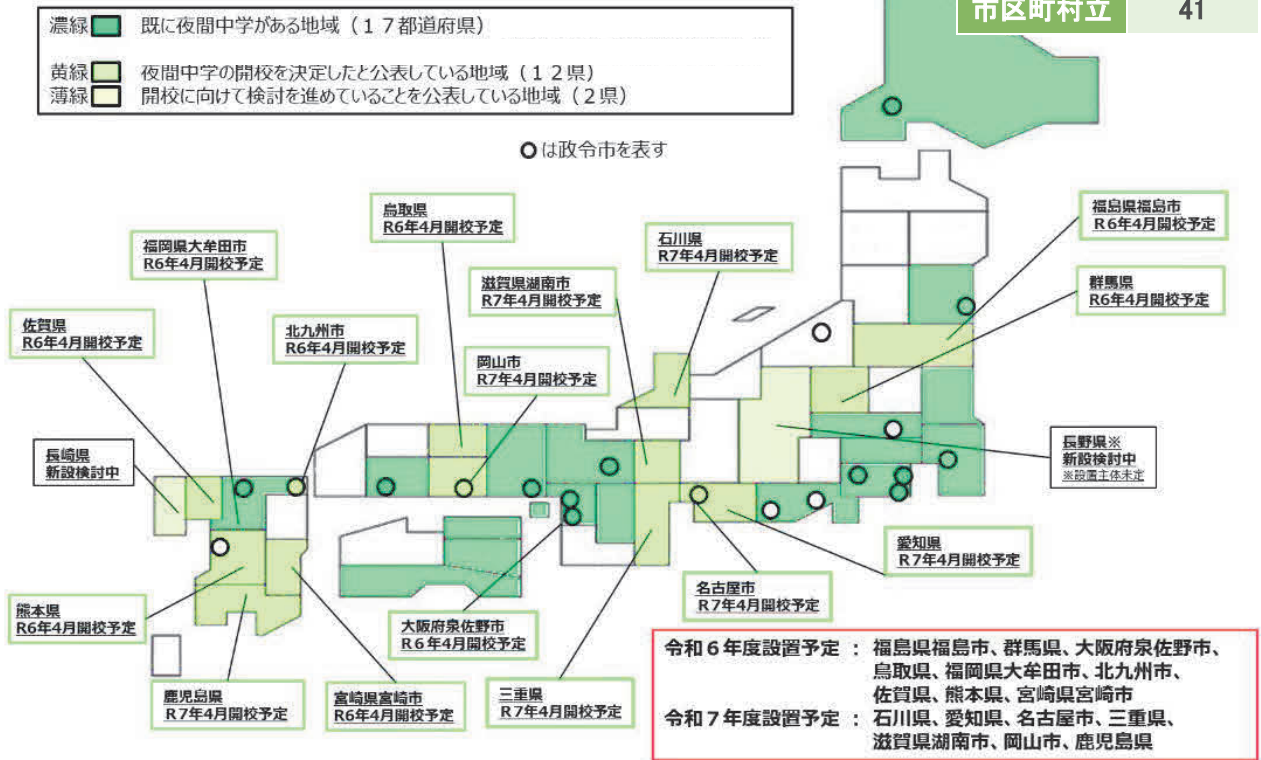
開設後 3年間 : 補助率 1/3 ※上限 250 万円

②公立学校施設の整備

夜間中学として小中学校等を設置する自治体に対する施設整備に係る支援 : 補助率 1/2

(3) 全国の状況

既設夜間中学一覧(R5年10月時点) 17都道府県に44校



夜間中学の設置・検討状況一覧（令和5年10月文部科学省調べ）

2 本県における夜間中学設置の必要性

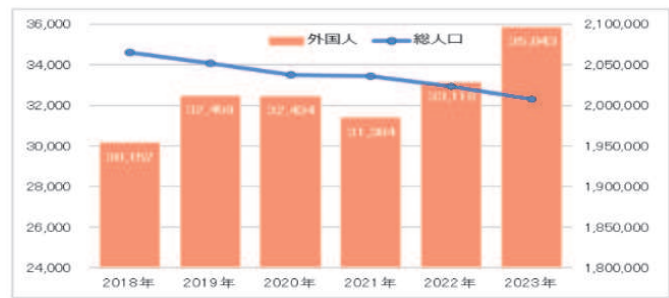
(1) 本県の現状

本県においては、平成 28 年に、「中学校夜間学級設置における課題検討会」を立ち上げ、以降、毎年市町村へのニーズ調査を継続してきた。平成 29 年度からは、市町村教育委員会だけでなく、県内の NPO 法人にも調査に協力いただき、ニーズの把握に努めてきた。その結果、令和 3 年度及び令和 4 年度の調査では、30 名を超えるニーズ報告があった。また、「動向を踏まえ夜間中学の設置について前向きに検討する」と回答した市町村が、令和 4 年度は二桁となった。

こうした結果を受け、県教育委員会は、当事者調査の必要性を認識するとともに、夜間中学を含めた新たな多様な学びの場の設置について協議する必要があると考え、有識者、市町村教育委員会、関係団体等を交えた協議の場を設けることとした。

①外国人人口の推移

本県の人口は、年々減少している中で、外国人の人口は、コロナによる入国制限により一時的に減少したものの、増加傾向にある。(2018 年比：総人口 97.2%、外国人人口 118.9%)



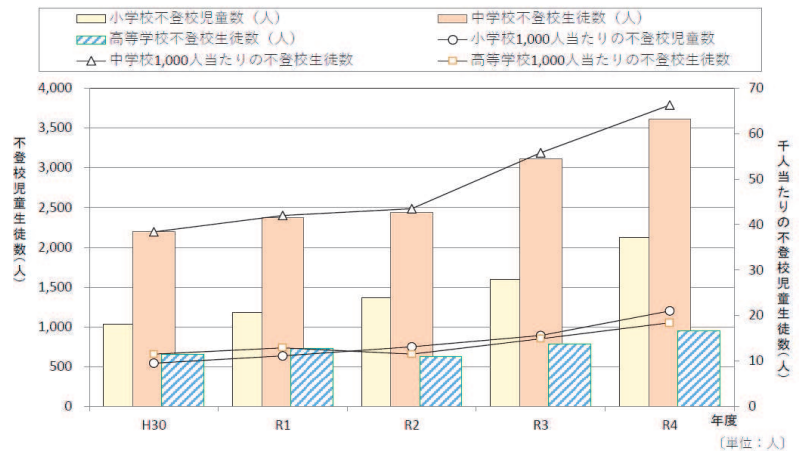
「長野県の人口と外国人人口の推移」 令和 5 年 8 月 長野県の最近の情勢について 統計ステーション長野調べ

②不登校児童生徒数及び 1,000 人

当たりの不登校児童生徒数の推移

義務教育段階の不登校児童生徒数は増加しており、義務教育段階において必要な学習機会を十分に得られないまま、形式的に卒業する生徒の数も増加していく可能性がある。

不登校児童生徒数及び1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移



「不登校児童生徒数及び1,000人当たりの不登校児童生徒の推移」 令和 4 年度不登校の状況について 心の支援課調べ

③未就学者、最終卒業学校が小学校の者の人数

令和2年度国勢調査時点において、長野県内の未就学者は、1,336人、最終卒業学校が小学校の者は、17,150人となっており、合計18,486人が義務教育を修了していないと考えられる。また、最終卒業学校が小学校の者のうち、戦前戦後の混乱期に学齢期であった者（現時点で80歳以上の者）は16,045人で全体の約93%を占めている。

生産年齢人口である15歳以上65歳未満の者については、最終卒業学校が小学校の者の割合は低いものの500人以上存在している。

	年齢構成	人数
1	15～19歳	2人
2	20～24歳	24人
3	25～29歳	35人
4	30～34歳	38人
5	35～39歳	38人
6	40～44歳	54人
7	45～49歳	99人
8	50～54歳	97人
9	55～59歳	83人
10	60～64歳	100人
11	65～69歳	142人
12	70～74歳	135人
13	75～79歳	258人
14	80～84歳	786人
15	85～89歳	4,642人
16	90～94歳	6,986人
17	95歳以上	3,631人
計		合計17,150人

「最終卒業学校が小学校の人数」 2020国勢調査

(2) 令和5年度ニーズ調査の結果

①調査の概要

【目的】

長野県夜間中学設置に向け、県内に在住する、「さまざまな事情により中学校に通うことができなかった方」「日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍または外国に由来のある方」「中学校を卒業したものの、何らかの理由によりほとんど学校に通えなかった方」などの当事者調査や当事者を支援者する方々にアンケート調査を行い、夜間中学へのニーズを把握した。

【調査期間】

令和5年7月26日（水）から令和5年9月25日（月）

【調査方法】

- ・チラシまたはポスターのQRコード、県ホームページよりアンケートフォームに回答
- ・はがきによる回答

【アンケートチラシ・ポスター設置場所】

市町村教育委員会及び市町村関連施設（市町村役場、日本語指導教室、社会福祉協議会、福祉事務所、公民館、図書館等の公共施設等） 郵便局 不登校児童生徒支援団体
外国籍児童生徒支援団体 県立病院 ハローワーク 商工会議所 長野銀行
ローソン ファミリーマート イオン とをしや薬局 など

【有効回答数】

(当事者) 回答数 62

(支援者) 回答件数 86

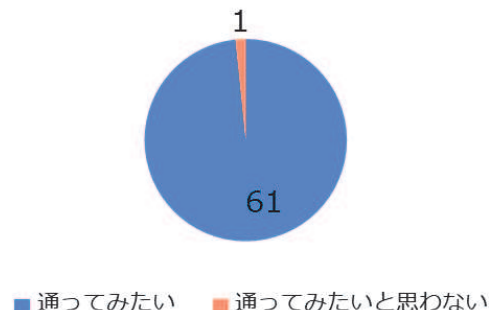
②調査結果

当事者による回答

1 夜間中学に通ってみたい方

当事者として回答した62名のうち、61名が夜間中学に通ってみたいと回答。

当事者 (夜間中学に通ってみたい方の数)

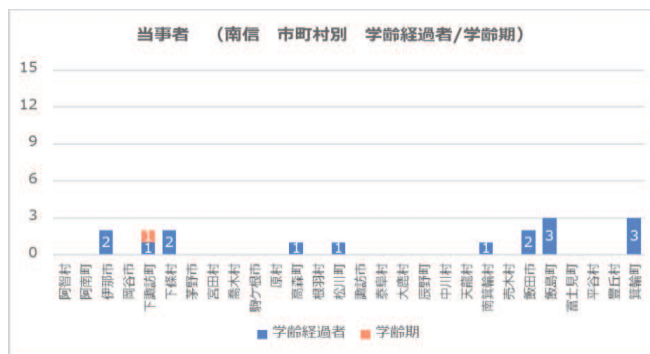
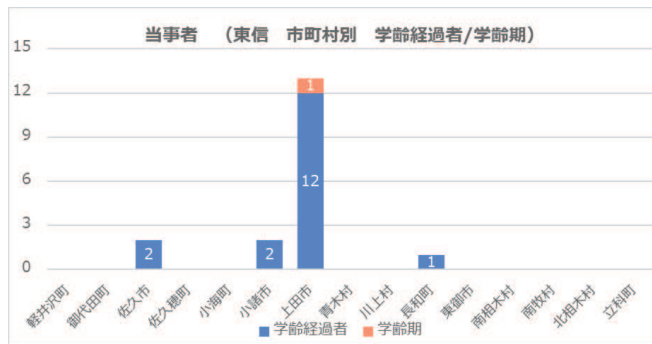
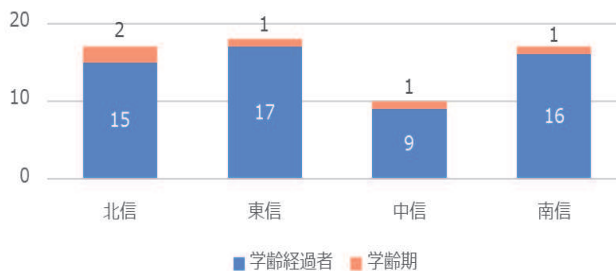


2 当事者回答 地域別のニーズ

どの地域にも一定のニーズがみられる。学齢期のニーズは、各地域1~2名であるが、当事者として回答していることを重く受け止める必要がある。

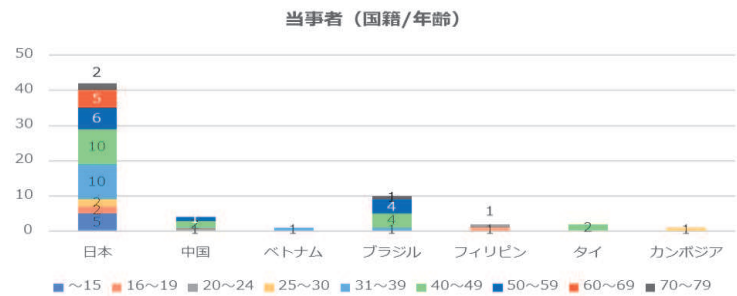
市町村別のニーズは、北信地区では長野市、東信地区では上田市、中信地区では松本市にまとまった回答があった。南信地区は、多くの市町村に分散している。

当事者 (学齢経過者/学齢期)



3 当事者回答 国籍・年齢別のニーズ

日本国籍の方のニーズが高く全体の約70%であった。年齢別では40代、50代のニーズが高く全体の約半数を占めている。外国籍ではブラジル国籍の方が多い。



4 夜間中学入学の理由

不登校、病気などで中学校にほとんど通えないまま、形式的に卒業した方のニーズが最も高い。次に、日本の中学校相当の教育を十分に受けていない外国籍・外国由来の方のニーズが高い。外国籍人口の増加や不登校児童生徒数の増加から推察すると、調査の結果以上に、潜在的なニーズが存在するものと考えられる。一方、戦後の混乱期に中学に通うことができなかった方からの回答は1件のみであった。



5 通ってみたい理由（複数回答可）

夜間中学に通ってみたい理由としては、「仕事のために学びたい」が最も多かった。また、「読み書きができるようになりたい」や「日本語を話せるようになりたい」など、日本語の習得を希望している回答も一定数確認できることから、そのニーズや規模等を考慮した上で、適切な手段を検討していく必要がある。



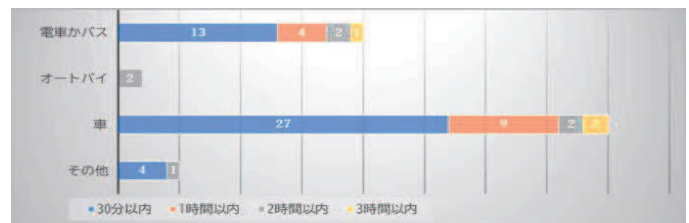
6 現在の状況

どの年代も、普段家にいる方のニーズがある。その中には、仕事をするために学びたいと考えている方が多く、普段家にいる方が、夜間中学での学習を契機として、社会的自立や就労につながる可能性も期待できる。



7 通学の方法と時間（複数回答）

希望する通学時間としては、30分以内が65%、1時間以内が85%であった。また、車で通学を希望している方が最も多いことから、夜間中学には駐車スペースを確保する必要がある。さらに、電車やバスでの通学を希望している方が一定数いることから、公共交通機関の利便性がよい場所に設置することが望ましい。

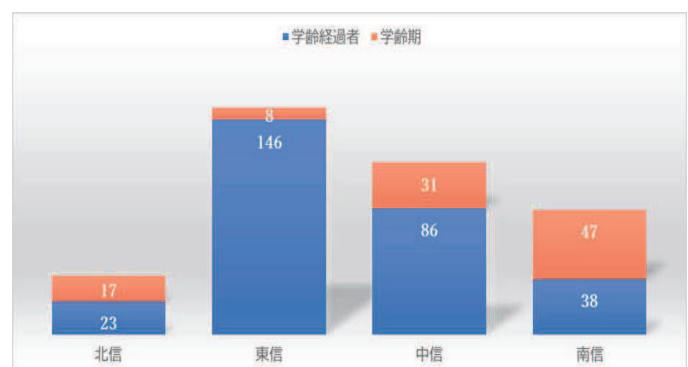


支援者による回答

1 地域別のニーズ

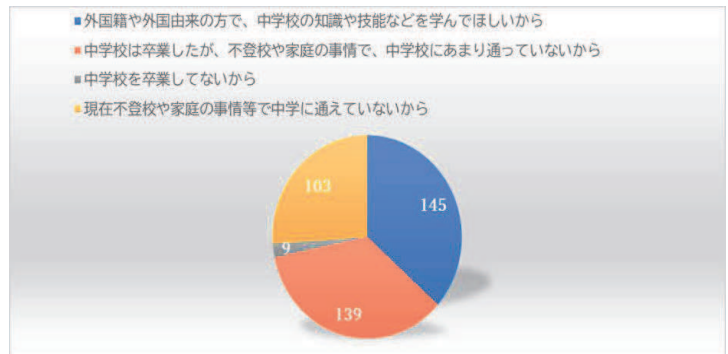
支援者が把握している夜間中学について知らせたい方の数は、当事者による回答数の多くを大きく上回っている。このことから、当事者の潜在的ニーズは、回答数以上にあることが予想される。

支援者が把握している学齢経過者のニーズは、東信地区、中信地区に多く見られた。南信地区には、学齢期の児童生徒（不登校生徒児童）のニーズが多くみられた。



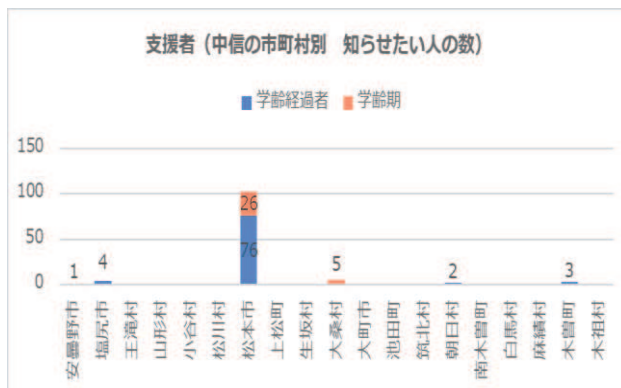
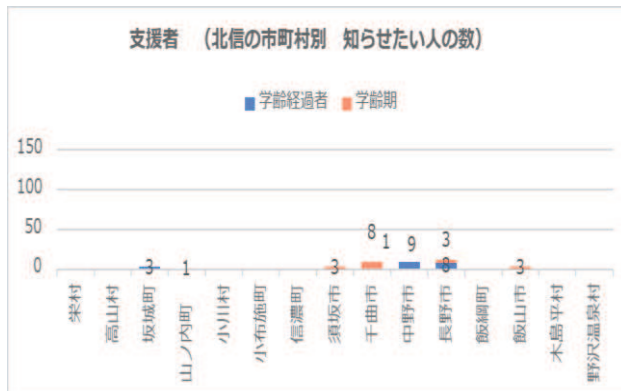
2 夜間中学について知らせたい理由

「外国籍や外国由来の方に、中学校の知識や技能を学んでほしいから」が145件で全体の36%、「中学校は卒業したが不登校や家庭の事情等で、中学にあまり通っていないから」が139件で35%、「中学校を卒業していないから」が9件で2%、「現在不登校や家庭の事情で中学に通えていないから」が103件で26%となっている。



3 支援者が把握している夜間中学入学対象者 市町村別ニーズ

支援者が把握している数は、上田市が126名と最も多く、松本市が76名であった。また、上田市の54%、松本市の55%が外国籍または外国に由来する方であり、学齢期生徒は、松本市や箕輪町で多く確認できた。



③調査分析

当事者からの回答が 62 名、うち 61 名が夜間中学への入学を希望していた。また、各地域で、夜間中学への入学を勧めたい方を支援している方からの回答は 86 件で、夜間中学について知らせたい方の総数は 396 名であった。

当事者と支援者の回答数に差がある理由は、今回の調査が当事者まで十分に届いていない可能性があること、当事者が夜間中学について具体的なイメージを持っていないこと、さらには、当事者の中には情報にアクセスしたり、自らの意見を表明したりすることが難しい方が存在すること等が考えられる。

調査の中で、当事者のニーズは、長野市、上田市、松本市を中心に周辺市町村で確認できた。

一方、支援者が認識しているニーズは上田市、松本市に集中していた。

以上の点を踏まえると、さしあたり、上田市周辺、松本市周辺など、当事者、支援者ともにニーズが高いと思われる地域に、夜間中学を設置していくことが望ましいと考えられる。

また、当事者が希望する通学時間は 30 分以内が 65%、1 時間以内が 85%であること、電車・バスなどの公共交通機関での通学希望者が一定数いることなどから、交通などの利便性を考慮しながら、設置場所を検討する必要がある。

3 夜間中学設置検討会議の意見要旨

(1) ニーズ調査結果について

- 様々課題があるが、自由回答記述欄も重く受け止める必要がある。
- 今まで困っていた方々からのポジティブな声が自由回答記述欄に表現されている。その期待に応えられる夜間中学を設置する必要がある。
- 南信地区のような多様なニーズに応えていくことも大切である。
- 把握している限り、もっとニーズがあるはず、回答数が少ないことが気になる。夜間中学のことをもっと知ってもらう必要がある。夜間中学について、特に夜間中学のメリットについて、支援者を通して咀嚼してもらいながら伝えていく必要がある。
- 「20年間、夜間中学への入学を切望していたが、なかなか設置されず、将来の夢が叶えられなかった。」と言っている方がいる。県外の夜間中学に通うことを検討していた人もいる。それくらい長野県に夜間中学ができることに期待を持っている人たちがいる。
- 日本人と同じ労働者になりたい。そのためにはせめて中学の卒業、できれば高校卒業の資格を取りたいと考えている外国籍の方々が大勢いる。
- 外国由来で日本語が分からず不登校となった方々にとっても必要な場所となる。日本で生活するために、せめて中学卒業程度の学力はつけたいと考えている方が大勢いる。
- まずは、ニーズが認められた地域に設置していく必要がある。

(2) 長野県夜間中学の理想像について

- 様々なニーズを包括して支援できる学校がよい。三豊市立高瀬中学校のように、学びの多様化学校との併設もよい。
- 横断的なニーズに応えるべく、夜間中学という形に縛られず、多様な学びを保障する場であってほしい。
- 既存のフリースクールや専修学校と夜間中学を併設するなど多様な学びができる場をつくるのもよいのではないか。
- 社会的に孤立をしている方を含め多様な学びの場である必要がある。
- 引きこもり等の方も含めて社会に参加するスキルを学べる学校であってほしい。
- 人とのつながり、人との関わりを大事にしたい。
- 希望者にとって、近くに夜間中学などの学び直しの場があることが望ましい。
- 全てを教職員に頼るのではなく、長野モデルとして、専門性のある支援団体やボランティアなど様々な立場の方にも参画してもらえる学校にしてほしい。
- オンラインでの学習方法の活用も検討してもらいたい。

(3) 今後の設置検討に向けて

- 当事者、支援者のニーズを踏まえ、夜間中学の設置検討を進めていく必要がある。
- まずは、上田市周辺や松本市周辺など、ニーズの高い地域から設置を行っていく必要がある。
- 多様なニーズに応えるべく、夜間中学単独設置にこだわらず、学びの多様化学校との併設などを含め、新たな学びの場を創造していく必要がある。

4 新たな学びの場 設置に向けての市町村アンケート結果

(1) 調査期間

令和5年12月18日(月)から令和6年1月15日(月)

(2) アンケート項目

※以下①～④の設問に関して、市町村教育委員会の考えを「設置に向けた検討をしたい」「設置することは難しい」の中から選択し回答

- ① 夜間中学について
- ② 学びの多様化学校について
- ③ 夜間中学校と学びの多様化学校の併設について
- ④ 多様なニーズを包括した柔軟な学校について
- ⑤ ①～④の回答の理由や意見の記述

(3) アンケート回収率

77市町村中70市町村(90.9%)

(4) アンケート結果(複数回答可)

設 問	「設置に向けた検討をしたい」と回答した市町村数
① 夜間中学について	0
② 学びの多様化学校について	1
③ 夜間中学校と学びの多様化学校の併設について	3
④ 多様なニーズを包括した柔軟な学校について	8

○夜間中学のみを単独で設置する意向を示した市町村はなかった。

○学びの多様化学校との併設や多様なニーズを包括した柔軟な学びの場について検討したい市町村は11市町村であった(1市町村が複数回答)。

【上記の回答の理由や意見】

- ・不登校などで形式卒業した学び直しのニーズは高いため、何らかの方法で対応できるよう、県と協働で進めていきたい。
- ・既存小・中学校を再編した小中一貫校新設を検討中であり、推進委員会で、多様性に対する支援の必要性が話題に上がっているため、夜間中学校や学びの多様化学校の定義にこだわらず、幅広く検討を進めたい。
- ・教育支援センター(市中間教室)を設けている公共施設の統合が検討されている段階であり、進捗により教育支援センターの今後のあり方を検討する予定がある。
- ・構想段階ではあるが、現在ある市の中間教室を中核として、不登校支援センターとし、不登校の相談や、児童生徒の学習の場としての機能を充実させていきたい。
- ・夜間中学単独では難しいが、学びの多様化学校との併設であれば考えられる。

5 長野県夜間中学設置に係る基本的な考え方

- (1) 県内に在住する、「様々な事情により中学校に通うことができなかった方」「日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍または外国に由来のある方」「中学校を卒業したものの、何らかの理由によりほとんど学校に通えなかった方」などのニーズに応え、夜間中学の設置準備を進める。
- (2) 夜間中学の入学対象者だけでなく、学齢期の不登校生の受け入れも可能とする多様なニーズを包括した学校についても検討し、夜間中学と学びの多様化学校との併設も含め、インクルーシブでフレキシブルな学びの場を創造する。
- (3) ニーズ調査結果、市町村への意向調査結果を踏まえ、ニーズの高い地域、設置を検討している市町村と共に協議を進める。

付 属 資 料

■夜間中学設置検討会議設置要綱

(目的)

第1 現在、長野県内に設置されていない夜間中学の設置に向けて、有識者等から意見を聴取し、長野県内における夜間中学設置の基本的な考え方を整理するため、夜間中学設置検討会議（以下「検討会議」という。）を開催する。

なお、検討会議は、地方自治法第138条の4第3項の規定による法律又は条令により設置された附属機関ではない。

(構成員及び実施方法)

第2 検討会議の構成員は、学識経験者その他教育委員会が適当と認める者のうちから教育委員会が依頼する。

2 必要に応じ、構成員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

3 検討会議に座長を置く。

4 検討会議の事務局を長野県教育委員会事務局義務教育課に置く。

附 則

この要綱は、令和5年4月10日から施行する。

■検討会議における検討経過

年 月 日	区 分	主な内容
令和5年 4月26日（水）	第1回夜間中学設置検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県における夜間中学設置検討の経緯について ・ 夜間中学設置に向けた国の考え方、本県における潜在的対象者数について ・ ニーズ予備調査結果について ・ ニーズ調査の実施方法及び今後の進め方について
令和5年 11月16日（木）	第2回夜間中学設置検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外視察報告について ・ 夜間中学に係る長野県の現状について ・ ニーズ調査結果報告について ・ ニーズ調査分析と長野県の現状について ・ 夜間中学設置に係る基本的な考え方（報告書）について ・ 長野県における夜間中学の理想像について ・ 設置に向けた市町村への意向調査について
令和6年 2月15日（木）	第3回夜間中学設置検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村への意向調査結果について ・ 設置に係る基本的な考え方（報告書）案審議

■長野県夜間中学設置検討会議委員名簿

氏 名（敬称略）	所属・役職等
荒井 英治郎（座長）	信州大学教職支援センター・准教授
柳林 信彦	高知大学副学長・教授
丸山 陽一	長野市教育委員会教育長
伊佐治 裕子	松本市教育委員会教育長
峯村 秀則	上田市教育委員会教育長
熊谷 邦千加	飯田市教育委員会教育長
西森 尚己	子ども支援・相談スペース「はぐるッポ」代表
長岡 秀貴	認定 NPO 法人侍学園スクオーラ・今人理事長
栗林 恭子	特定非営利活動法人中信多文化共生ネットワーク
安藤 健二	上田市多文化共生推進協会
曾根原 好彦	県教育委員会事務局教育次長

長野県教育委員会 御中

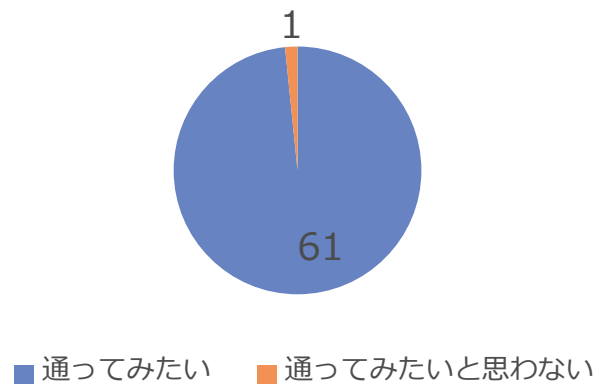
長野県内における夜間中学 設置二一ズ調査業務調査結果報告書

2023年11月

目次

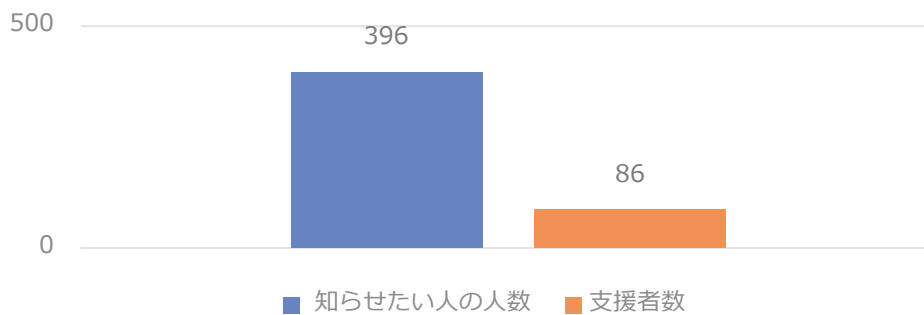
当事者	通ってみたい方の数	03
支援者	紹介したい人の数	03
当事者	国籍/年齢	03
当事者	地域別 学齢経験者/学齢期	04
当事者	北信 市町村別 学齢経過者/学齢期	04
当事者	東信 市町村別 学齢経過者/学齢期	04
当事者	中信 市町村別 学齢経過者/学齢期	05
当事者	南信 市町村別 学齢経過者/学齢期	05
当事者	入学の理由	06
当事者	通ってみたい理由	06
当事者	地域/通ってみたい理由	07
当事者	地域/入学の理由	07
当事者	北信/通ってみたい理由	08
当事者	東信/通ってみたい理由	08
当事者	中信/通ってみたい理由	09
当事者	南信/通ってみたい理由	09
当事者	年齢/地域	10
当事者	通学方法/時間	10
当事者	最終学歴/年齢	10
当事者	要件を満たさない大卒等/地域/通ってみたい理由	11
当事者	年齢/通ってみたい理由	11
当事者	年齢/自由記載	12
当事者/外国籍	外国籍/地域/通ってみたい理由	14
当事者/外国籍	北信/外国籍	14
当事者/外国籍	東信/外国籍	14
当事者/外国籍	中信/外国籍	15
当事者/外国籍	南信/外国籍	15
支援者	地域別	16
支援者	知らせたい理由	16
支援者	北信の市町村別	17
支援者	東信の市町村別	17
支援者	中信の市町村別	17
支援者	南信の市町村別	18
支援者	夜間中学を知らせたいと思う人	18
当事者	北信/最終学歴/年齢	19
当事者	東信/最終学歴/年齢	19
当事者	中信/最終学歴/年齢	19
当事者	南信/最終学歴/年齢	20
当事者/支援者	北信の市町村別	21
当事者/支援者	東信の市町村別	21
当事者/支援者	中信の市町村別	21
当事者/支援者	南信の市町村別	22
支援者	自由記載	23
総括		27

当事者（夜間中学に通ってみたい方の数）



・アンケートに回答者のほぼ全員が夜間中学に通うことを希望している。

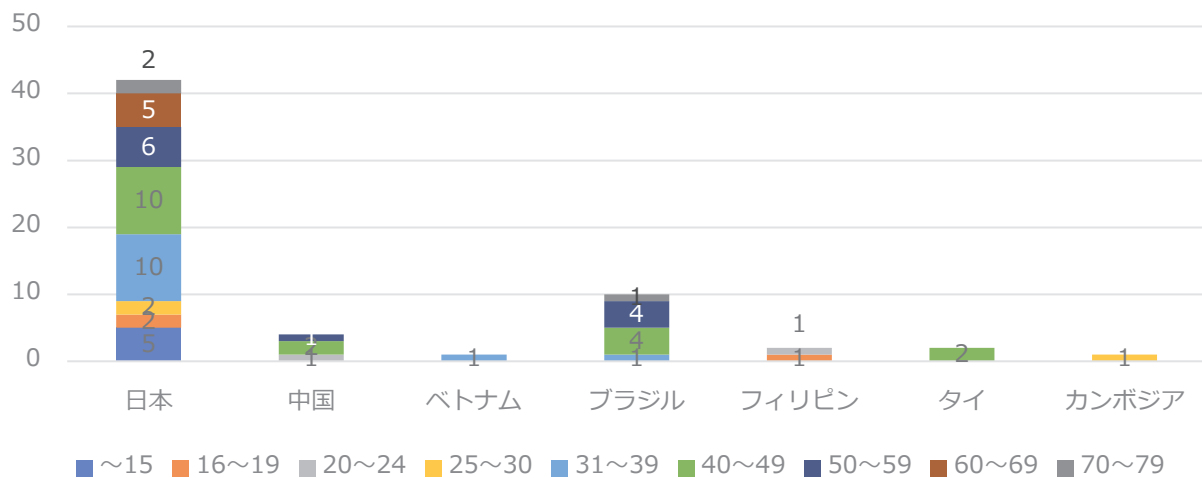
支援者（紹介したい人の数）



※支援者：夜間中学に通うことを勧めたいと考える方と関係のある方（支援団体・地域の方・保護者など）

・支援者1人あたり4.6人の「紹介したい人」を持っている。

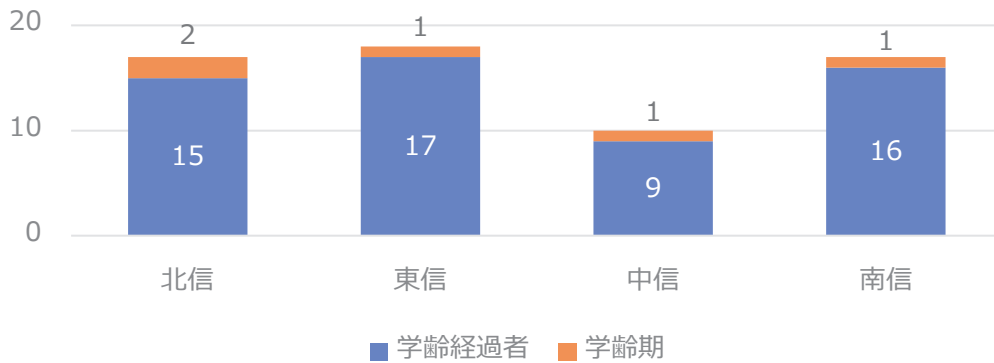
当事者（国籍/年齢）



・日本では31-39、40-49の層がボリュームゾーンである。

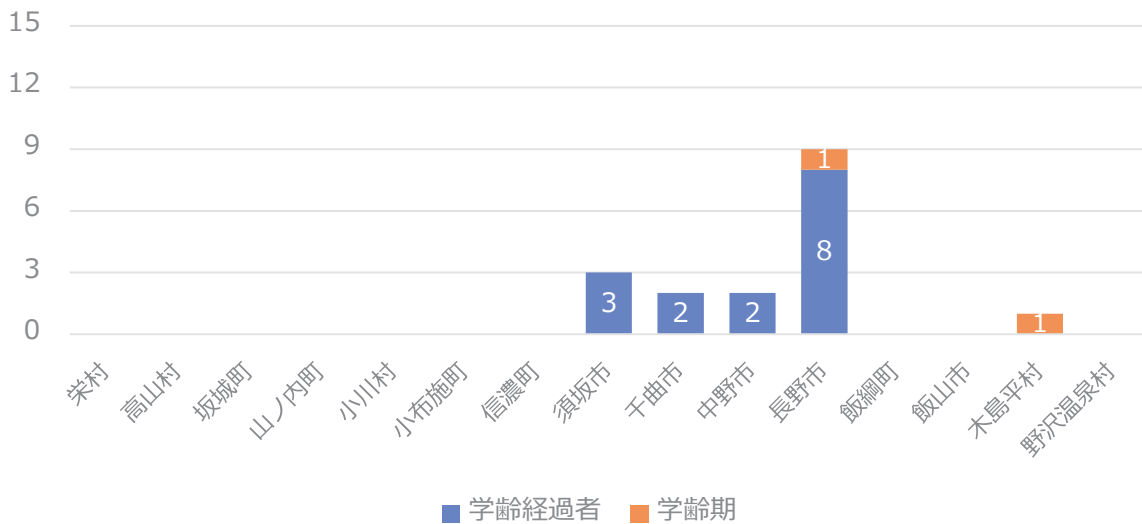
・外国ではブラジルの割合が多く、40-49、50-59の年齢が多いことがわかる。

当事者（学齡経過者/学齡期）

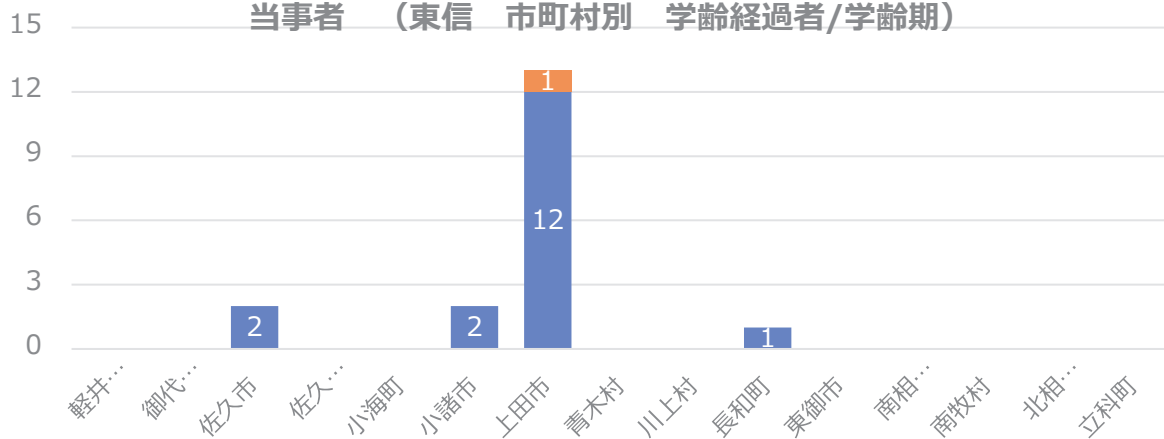


- ・学齡期（-15歳）の割合は各エリアで大きな差は見られない。
- ・全体のボリュームでは比較的中信エリアが少ない傾向である。

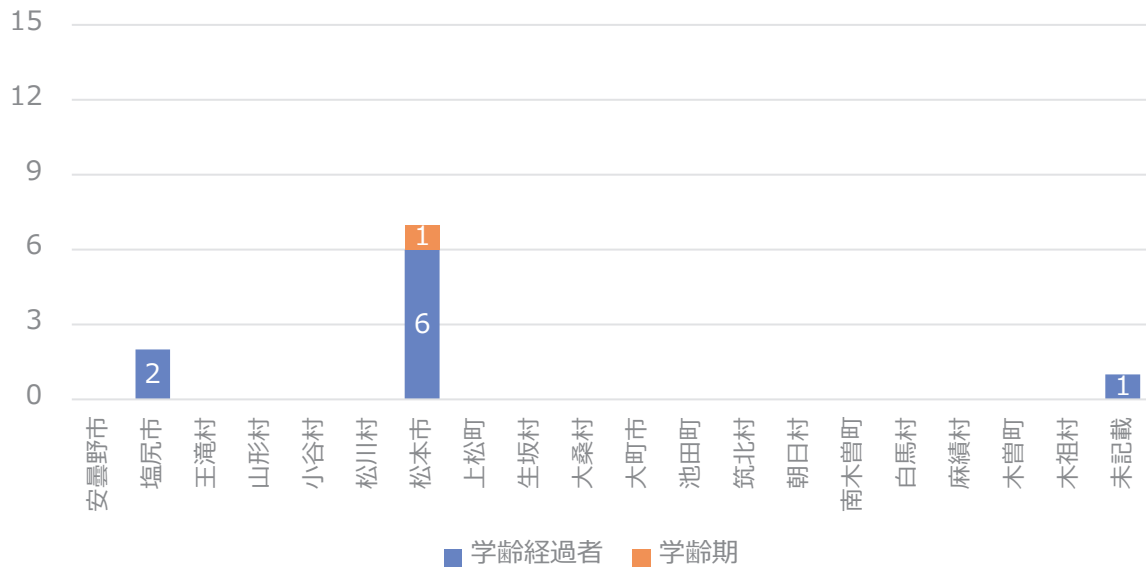
当事者（北信 市町村別 学齡経過者/学齡期）



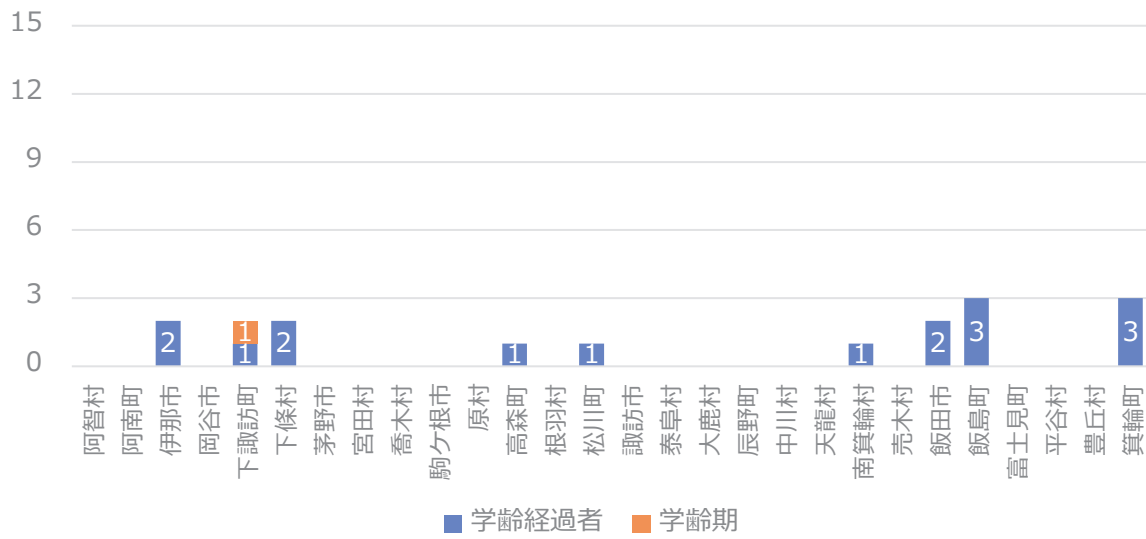
当事者（東信 市町村別 学齡経過者/学齡期）



当事者 (中信 市町村別 学齢経過者/学齢期)

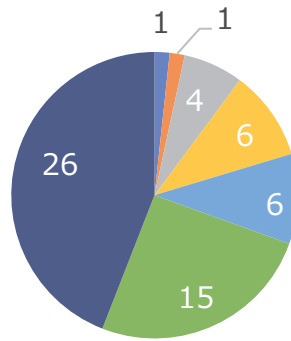


当事者 (南信 市町村別 学齢経過者/学齢期)



- ・北信、東信、中信の3エリアは主要都市に当事者が集中する傾向。
- ・南信エリアについては各市町村ごとによらつきが見られる。

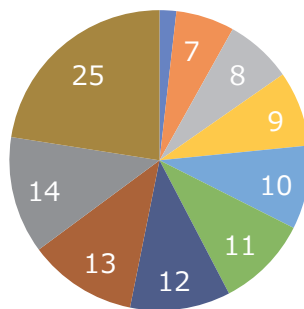
当事者（夜間中学入学の理由）



- 戦後の混乱期に、さまざまな事情により、中学校に行くことができなかった方
- 義務教育を卒業できていない
- 日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍の方
- 現在不登校や家庭の事情等で中学に通えていない方
- 日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍、または、外国に由来のある方
- この中にあてはまるものはない方
- 中学校を卒業したものの、何らかの理由により、ほとんど学校に通えなかった方

- ・多くが何らかの理由で中学校に通えない、もしくは中学を卒業したものの通えなかった等の理由が多く見られる。
- ・外国籍が所以の割合は全体の17%だった。

当事者（夜間中学に通ってみたい理由）

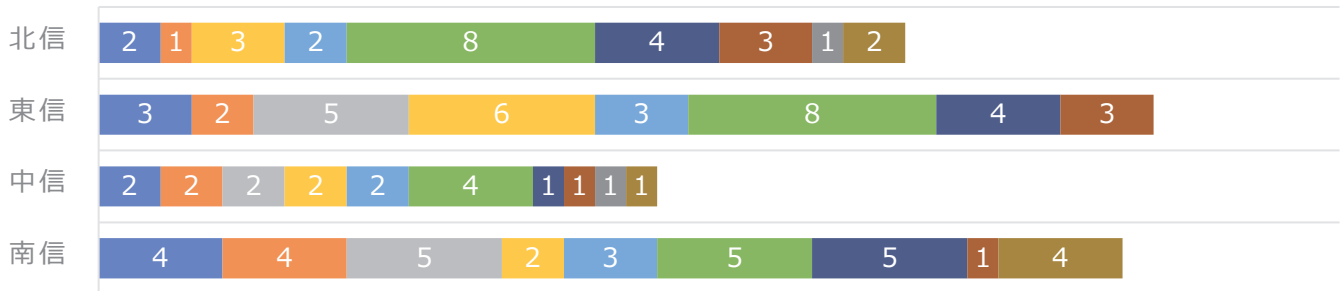


- 現在中学校に通えていないから
- 高校へ進学したいから
- 読み書きができるようになりたいから
- 日本の文化や社会について学びたいから
- 仕事のために学びたいから
- その他
- 日本語を話せるようになりたいから
- 友達をつくりたいから
- 日本の中学校を卒業したいから
- 中学校は卒業したが、もう一度学び直したいから

- ・大きな偏りはなく、当事者の様々なニーズが存在していることがわかる。
- ・特に学び直しのニーズは強い傾向である。

当事者（地域/通ってみたい理由）

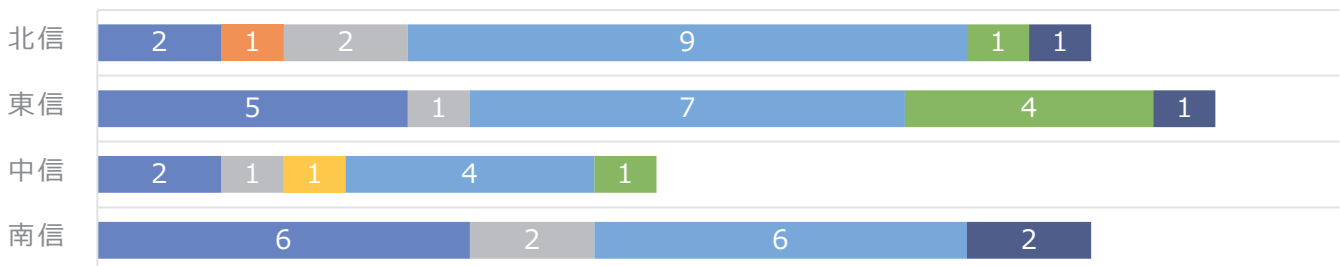
- 友達をつくりたいから
- 日本語を話せるようになりたいから
- 日本の文化や社会について学びたいから
- 日本の中学校を卒業したいから
- 読み書きができるようになりたいから
- 中学校は卒業したが、もう一度学び直したいから
- 仕事のために学びたいから
- 高校へ進学したいから
- 現在中学校に通えていないから
- その他



- ・ 中学卒業経験者の学び直しニーズは各地域に見られている。
- ・ 外国人由来のニーズは東信、南信で高い傾向である。

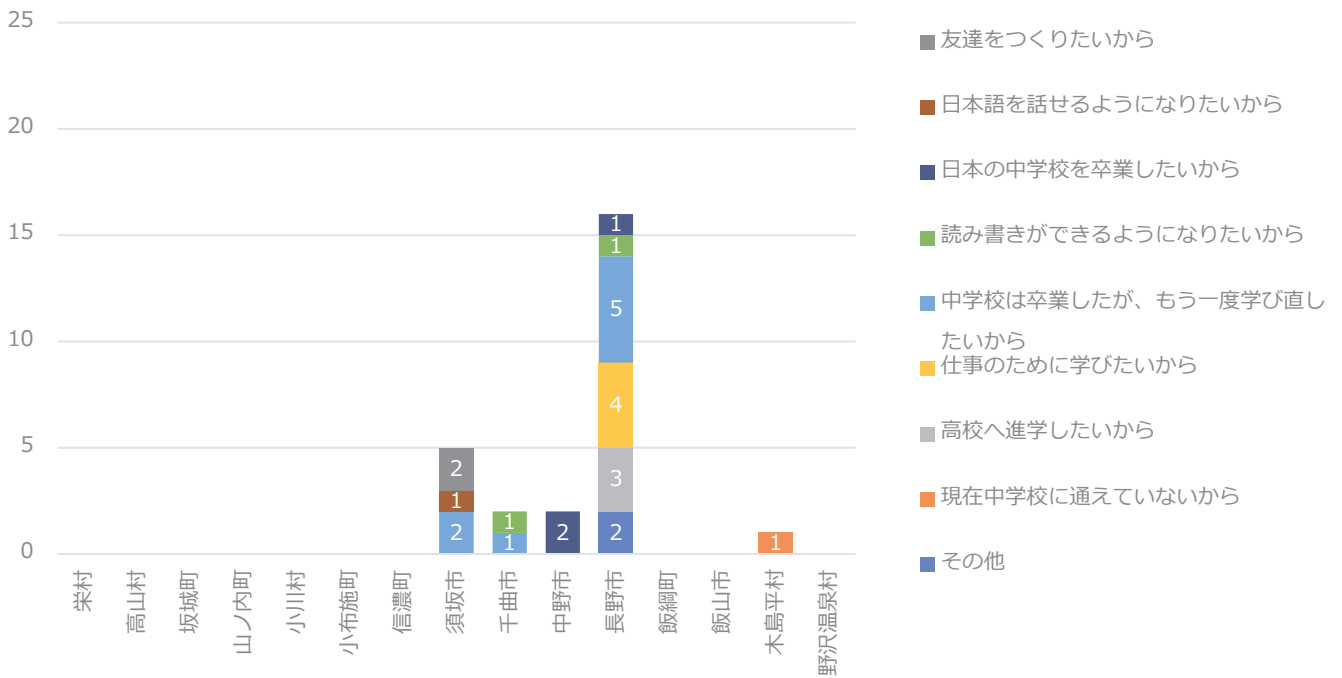
当事者（地域/入学の理由）

- この中にあてはまるものはない方
- 義務教育を卒業できていない
- 現在不登校や家庭の事情等で中学に通えていない方
- 戦後の混乱期に、さまざまな事情により、中学校に行くことができなかった方
- 中学校を卒業したものの、何らかの理由により、ほとんど学校に通えなかった方
- 日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍、または、外国に由来のある方
- 日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍の方



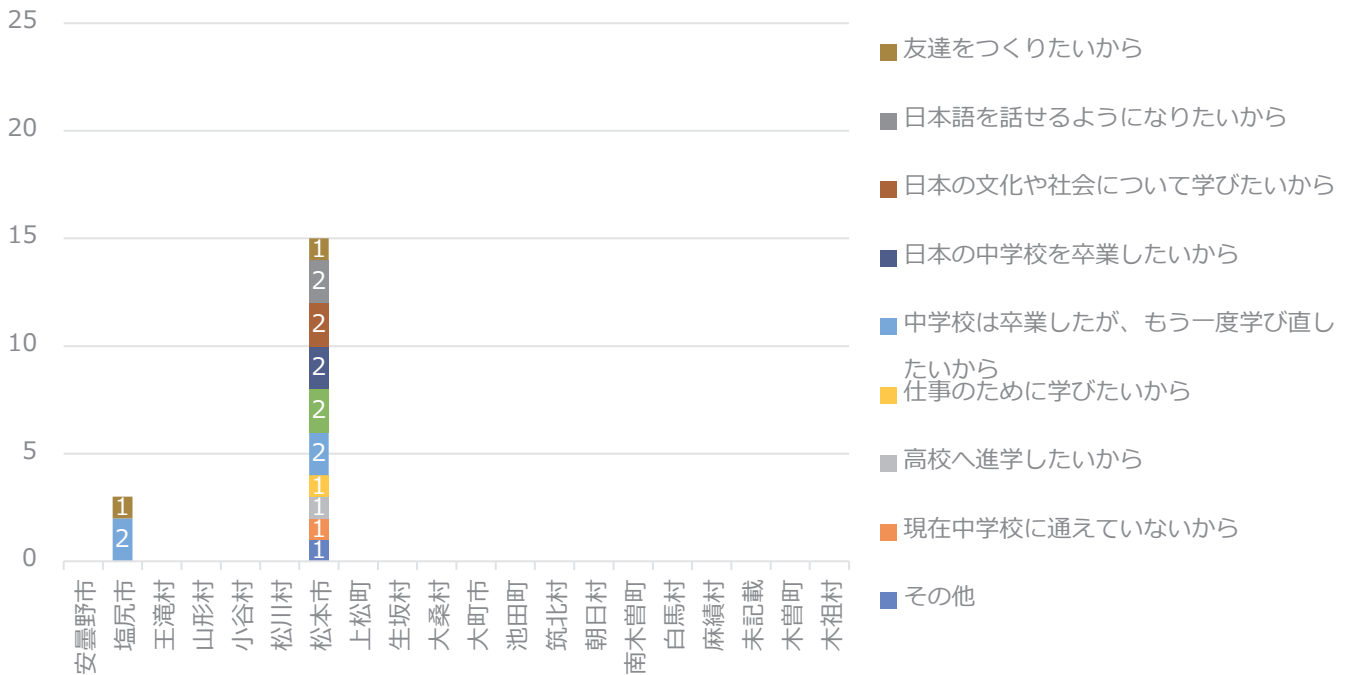
- ・ 中学卒業したが、学び直したいニーズが各エリアで多く占めている。
- ・ 「この中に当てはまるものはない方」が東信、南信に多く占めており、ニーズの多様さがうかがえる。

当事者（北信/通ってみたい理由）



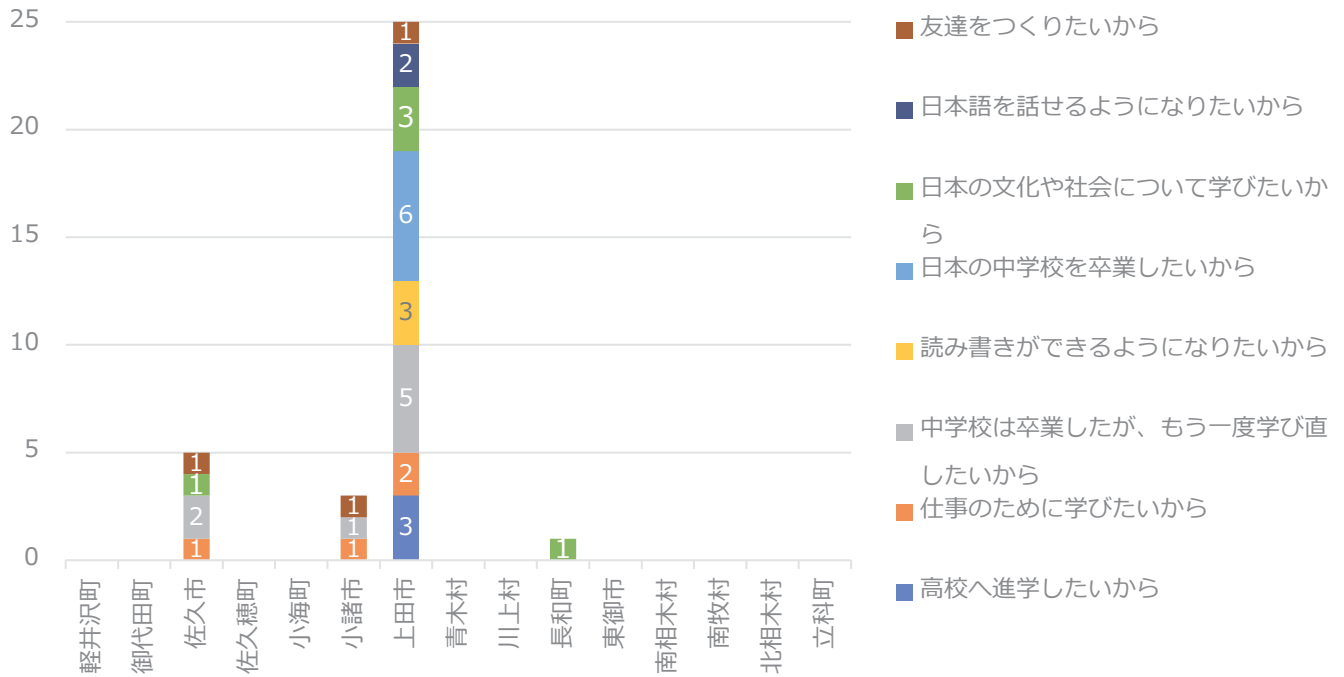
- ・長野市では学び直しの需要が高いことがわかる。
- ・須坂市では友達をつくりたい需要がみられ、コミュニケーションの手段として検討していることがわかる。

当事者（中信/通ってみたい理由）



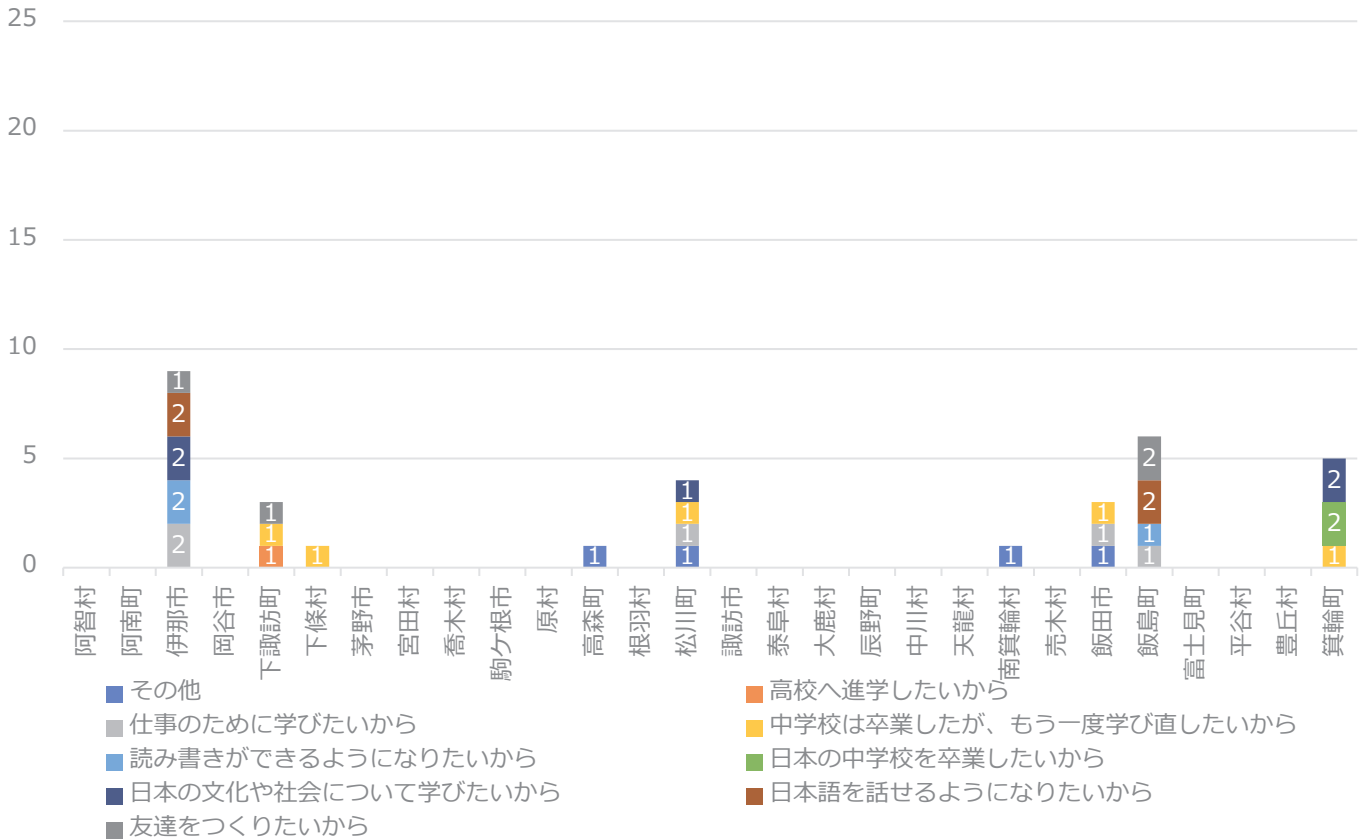
- ・中信エリアではニーズの偏りはない傾向。

当事者（東信/通ってみたい理由）



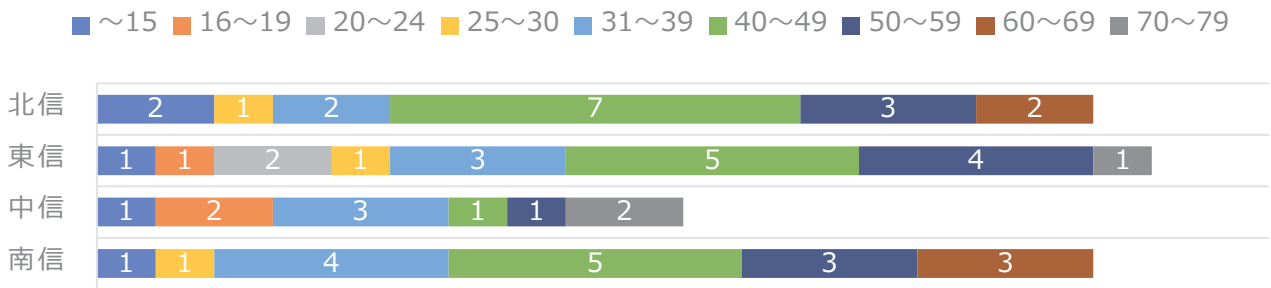
・上田市では「日本の中学校を卒業したいから」が多く含まれている傾向。

当事者（南信/通ってみたい理由）



・「仕事のために学びたいから」「中学は卒業したが、もう一度学び直したいから」が各地域に見られる。

当事者（年齢/地域）



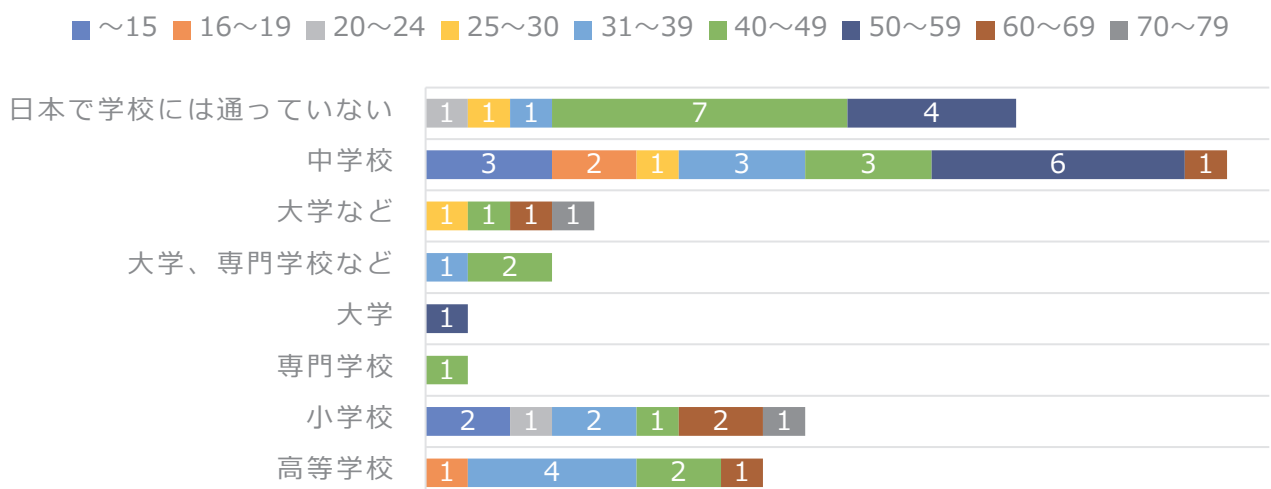
- ・各エリアでは31歳以降のボリュームが多い傾向である。
- ・中信エリアのみ高齢層は他のエリアと比べ少ない傾向。

当事者（通学方法/時間）



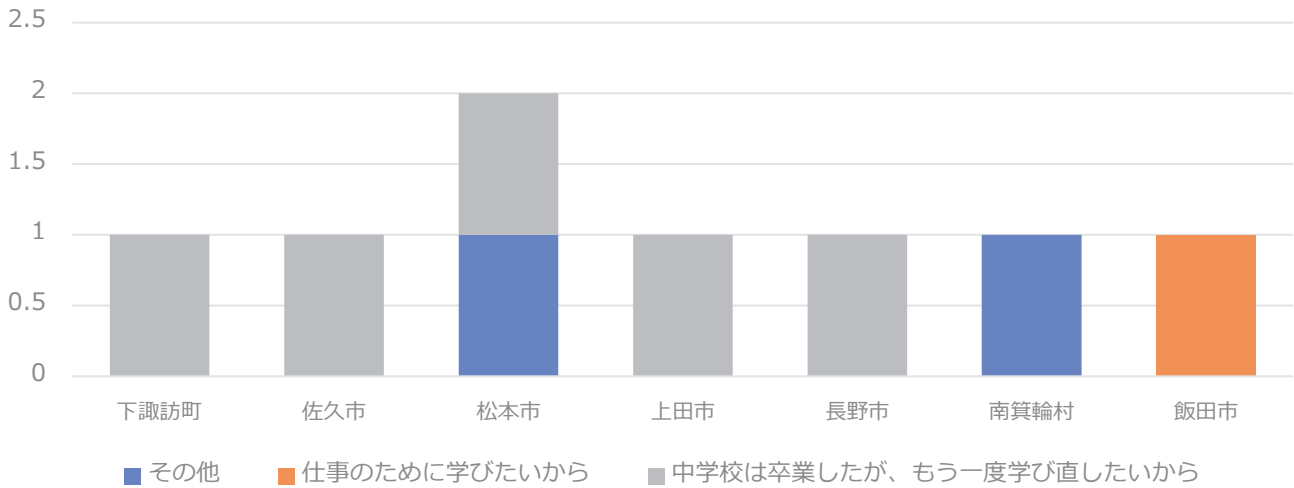
- ・主な通学方法は車が多くを占めている。
- ・それぞれ30分以内での許容を示しているが、車に限っては1時間以内も許容としている。

当事者（最終学歴/年齢）



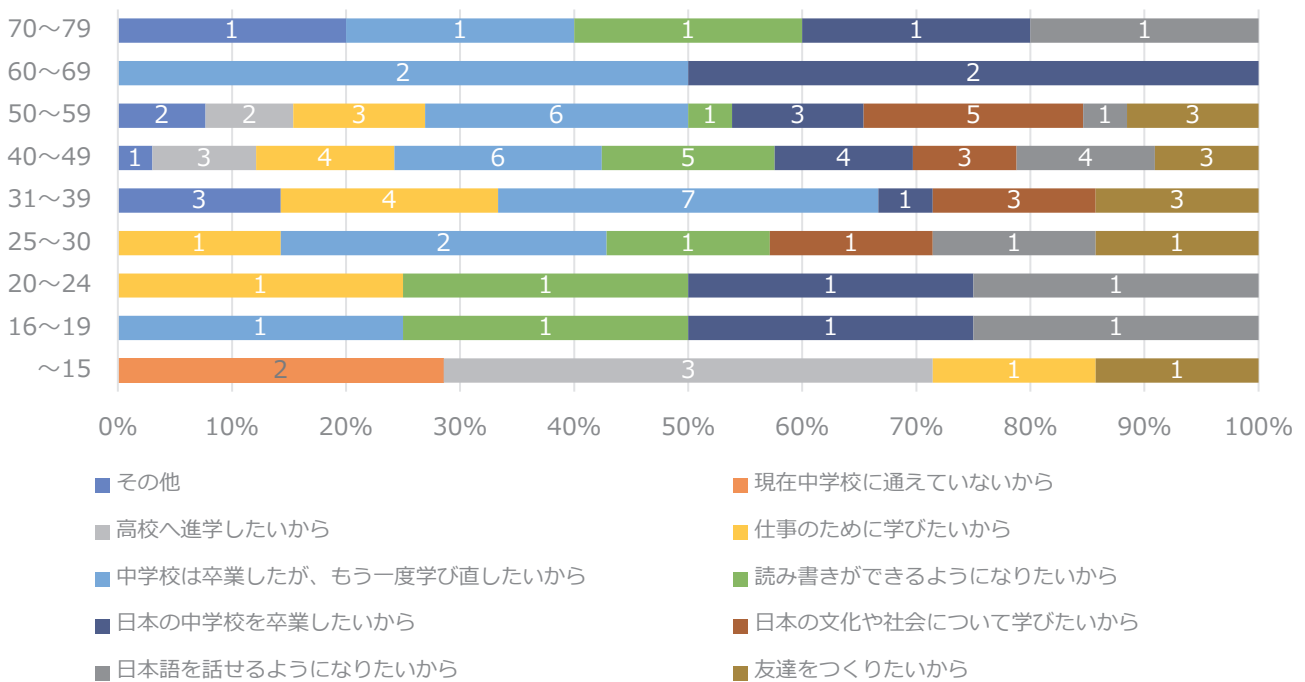
- ・中学校を卒業した当事者が多くを占めている中、小学校、高等学校も一定数見られる。
- ・日本で学校には通っていない（外国籍と思われる）は40歳以降の層が多くを占めている。

当事者（要件を満たさない大卒等/地域/通ってみたい理由）



- ・大学、専門学校で抽出。
- ・松本市のその他は「克服できない科目があり、基礎から学び直したいから」、南箕輪村のその他は「当てはまるものはありません」だった。
- ・学び直しの需要が高いことがわかる。

当事者（年齢/通ってみたい理由）



- ・15歳までと16歳以降ではニーズが大きく異なる。
- ・15歳までは中学への通学再開、高校への進学の需要が高く、16歳以降では学び直しのニーズが高い。
- ・31歳以降では仕事のための学び直し需要が高く、実生活に活かすために通学を希望しているニーズが見られる。

当事者（自由記入欄）

年代	4. ご意見 (たとえば、こんな学校なら通ってみたい。 こんなことを学びたい。 など)
～15	みんなと同じように授業を受けた内申点もつけてほしい。
16～19	日本語をもっと勉強するために学校に行きたい、そして友達も作りたい。 (i want to go school to learn more in japanese language and study and i want to make friends)
20～24	小学校の勉強を学び直したい。タイ語ができる日本人教師に学びたい。 (อยากเรียนเบื้องต้น ของการศึกษามหาภาคประถม อยากเรียนกับอาจารย์คนไทยที่พูดภาษาไทยได้ สื่อสารภาษาได้)
25～30	日本人と喋ったら、日本語が上手になると思います
25～30	<p>幼い頃から集団行動が苦手な学校という空間もとても苦手でした。 小学4年生で担任の先生が変わった時、その担任の先生は気に食わない事があると子供達にあたるような人で嫌だなと思っていたら、いつのまにかその先生は私を標的にするようになりました。それから小学5年生になる頃にはその先生によるいじめが原因で心が壊れてしまい、小学5年生から中学3年生までまともに登校することはできませんでした。</p> <p>大人になった今社会人を10年近くやりましたが、やはり幼い頃からの人間不信な気持ちは長く仕事をすればするほど大きくなり、ついに限界を迎え精神病を拗らせてしまい、この春会社を退職しました。 学歴コンプレックスがあるため新しい環境へ踏み込むこともできず悩んでいたところに、夜間中学のチラシが目に入り留まりました。 これから先も自分がまだ生きていいんだと思えるように、学ぶことからやり直したいです。</p> <p>私は過度にコミュニケーションをとる事や集団行動、集団の前に立ち1人で発言する事などにとっても強いストレスを感じてしまうのですが、「必ず授業中は発言をしなければならぬ」「空いた時間は周りとお話をしなければならぬ」など学校のルールはありますか？ 発言や発表の場が本当に苦手なのでそれらが無いのであればとても嬉しいです。</p> <p>学のない自分は挑戦もせずに諦めることが多く、自分から行動することがずっとできずにいたのでこのような学ぶ機会を考慮していただけた事が何より嬉しく幸せに思います。素敵な学校になりますようお願いしております。</p>
31～39	<p>私は6才から病気で小学校もたまにしか行けませんでした。 勉強もできなくて中学校から高校生まで養護学校に行きました。 それも毎日ではなく行ける時行けて半日まででした。 卒業してから自分で勉強しようといういろいろやってみたけど、どうやっていいかわからないし、嫌になって、続きませんでした。どうやっていいかわからなくて…あきらめてました。 それで、この夜間中学でできた学び直しのチラシをみて、ぜひやって欲しいと思いました。 ずっと夜間中学がないかなって思っていました。 元不登校の人達も私みたいに病気で行けなく勉強が出来なかった人も多いと思うので、ぜひぜひ夜間中学を初めて欲しいのでよろしくお願ひします。</p>
31～39	飯田市内に出来たら通いたい。国語の漢字や文法、社会や理科、英語など、今から恥ずかしく人に聞けない。学び直して仕事にいかしたい。 ぜひ、飯田市につくって欲しいです。
31～39	夜間でも明るい環境で勉強がしたいです。
31～39	まず始めに、夜間中学の開設の検討をいただいたことに感謝します。 教育県といわれている長野県に1つも設置が無いことを前から思うところが有りました。 空き教室が有るならば昼間の時間に通いたいとは思っています。 夜勤在職者には通えないので。
31～39	事情があり3年間不登校でした。 夜間中学ができたらぜひ通いたいです。

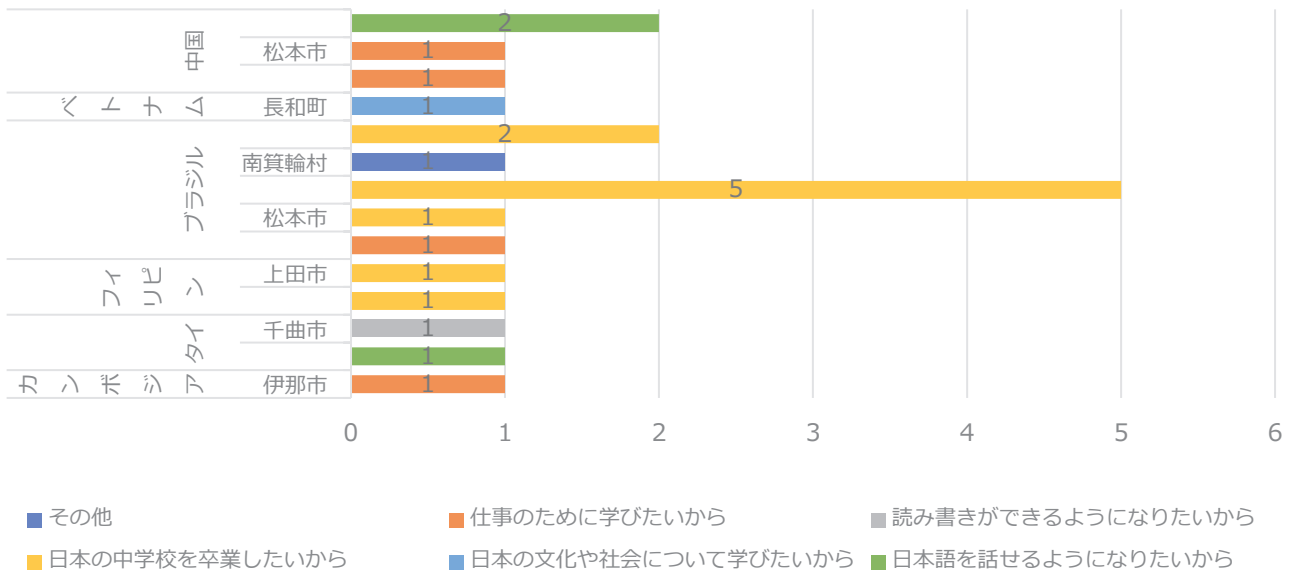
- ・24歳までは外国人籍が多く、日本語を学ぶ、中学の学び直しの需要が見られる。
- ・39歳までの層は何らかの理由で不登校になったことから学び直しをしたいニーズが見られる。仕事など、これからの生活に活かすための手法として夜間中学を選んでいる傾向である。
- ・病気やいじめなど不登校の要因が明確な記述されている。
- ・「ぜひ通いたい」「学ぶ機会を考慮してもらえて嬉しい」等、夜間中学を強く望んでいたニーズが文面からうかがえる。

当事者（自由記入欄）

40～49	夜間中学行きたいけど3歳の娘いますので別の時間お勉強できるかな？
40～49	高校卒業しましたが、今で言う学習障害や、発達障害で勉強が全くできず今では、子供に勉強を教えることが出来ません。少し私にあった勉強方法を、教えてもらいたいです。
40～49	私は障害があります。障害者です。小学校、中学校とイジメにあって学校へ行けなくなりました。学校へ通いたいです。囲碁、将棋、勉強、音楽やりたいです。
40～49	学校へ通っているときは、イジメられていてとても勉強に集中する事が出来ませんでした。家庭でも問題があり、諸々の問題を抱えたまま歳月が過ぎていきました。現在は社会生活も多少経験しましたが、未だに自分に自信が持てずに実家で養ってもらっている状況です。もうすでに40代ですが、学校へ学び直しをさせてもらい勉強の仕方の感覚を覚えさせてもらいましたら、せめて何か資格などをとって自分の食べていけるだけの収入と学び続けられる習慣などが身につけばと思っています。
40～49	小学校から不登校だったため、中学の勉強についていけられない場合、小学校の算数から(補習) 教えていただきたい
40～49	日本語が学べる環境がほしいです（想有一个学习日语的环境）
40～49	分からないまま諦めてしまったことをもう一度勉強してみたい
40～49	日本語が学べ、より多くの人と出逢える環境がほしい。（我想有一个学习日语的环境，多认识一些朋友）
50～59	私は国語、漢字、社会、理科だけ学びたいですけど、可能でしょうか？
50～59	近くに夜間中学校があることは夢が叶うようなことです。今まで独学で覚えた小学校の漢字を役に立つでしょう。現在、中学の漢字を勉強中です。日本語が大好きです。日本の学校の国語と文学を習いたいです。歴史も好きです。数学は難しいかもしれませんが頑張りたいと思います。よろしくお願いします。
50～59	以前、常総市や川口市へ通う事を検討しましたが、不便です。長野県内の駅から歩いて行ける範囲の距離なら便利です。新幹線の停車駅はもっと良いです。上田駅、佐久駅(暗いイメージがありますが)、長野駅。松本市は電車で遠回りになります。車で通うことになります。熊谷駅も新幹線で早いです。高崎市も行けます。上田市だったら、上田高校と第二中学校が駅から歩いて行けます。文学を学びたいです。よろしくお願いします。
50～59	また中学校に行きたいからです。
50～59	また中学校に行きたいです。
50～59	一般常識を学びたい。人と話が成り立つようになりたい。恥ずかしい思いをしたくない。
60～69	不登校の子が沢山いて苦しんでいます。学びの機会を作って欲しいと願います。
60～69	家庭の事情でイジメにあい満足に学校へ通うことが出来なかったので、学び直したいと切実に願います。
70～79	様々な理由(事情)があると思いますが、後悔しない生き方をしたい(ちゃんと勉強しておけばよかったと思いつけていたくない)と考えています。

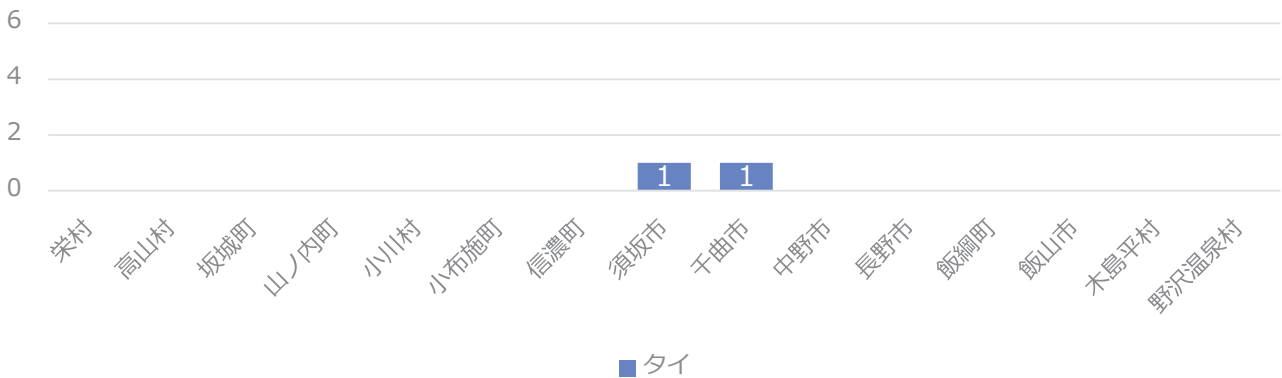
- ・40-49歳では自身の障害が要因で満足な学習ができなかった発言が見られた。ある程度時間が経ち、新たにスタートを切るきっかけとして夜間中学を検討しているニーズがうかがえる。
- ・50-59歳では県外の夜間中学通学を検討しているニーズもある。一般常識を学び直して恥ずかしい思いをしたくないという思いがうかがえる。
- ・60歳以上では後悔しない生き方をしたい等、人生を踏まえた学び直しを検討しているニーズが見られる。

当事者 (外国籍/地域/通ってみたい理由)

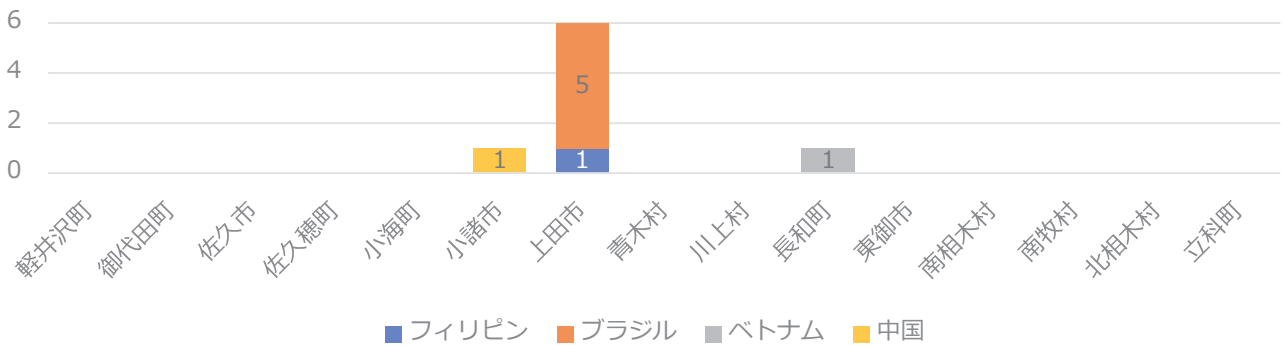


- ・「日本の中学を卒業したい」ニーズを持ったユーザーが、ブラジル、フィリピンで多い傾向。
- ・外国人の比率は上田が多い傾向。

当事者 (北信/外国籍)

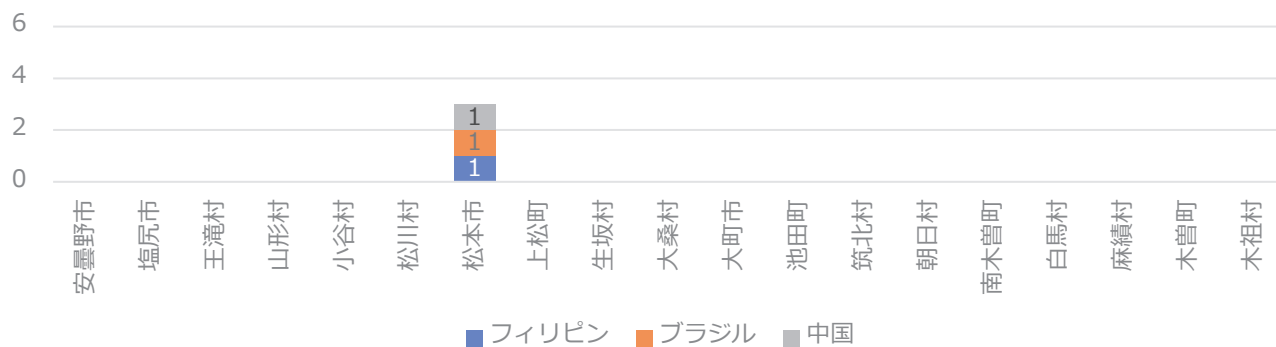


当事者 (東信/外国籍)

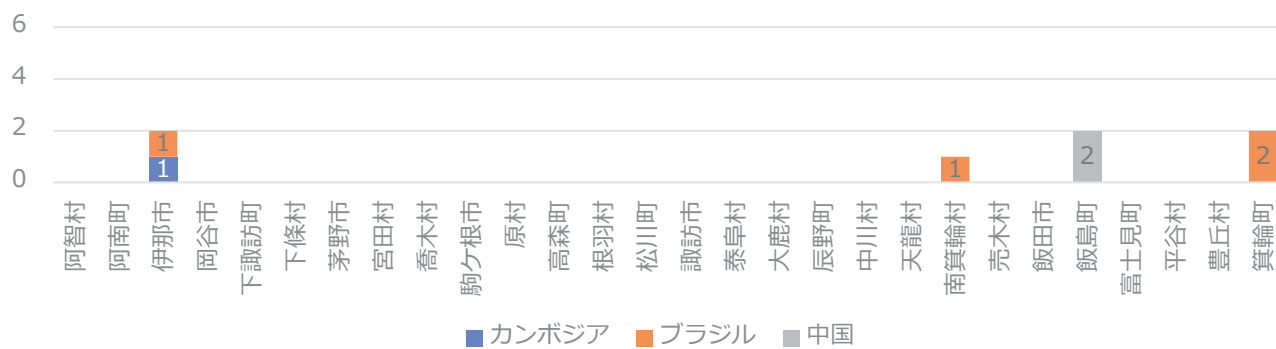


- ・長野市では外国人の当事者は含まれなかった。
- ・東信では上田市での外国人比率が高く、ブラジル人が多い傾向。

当事者（中信/外国籍）

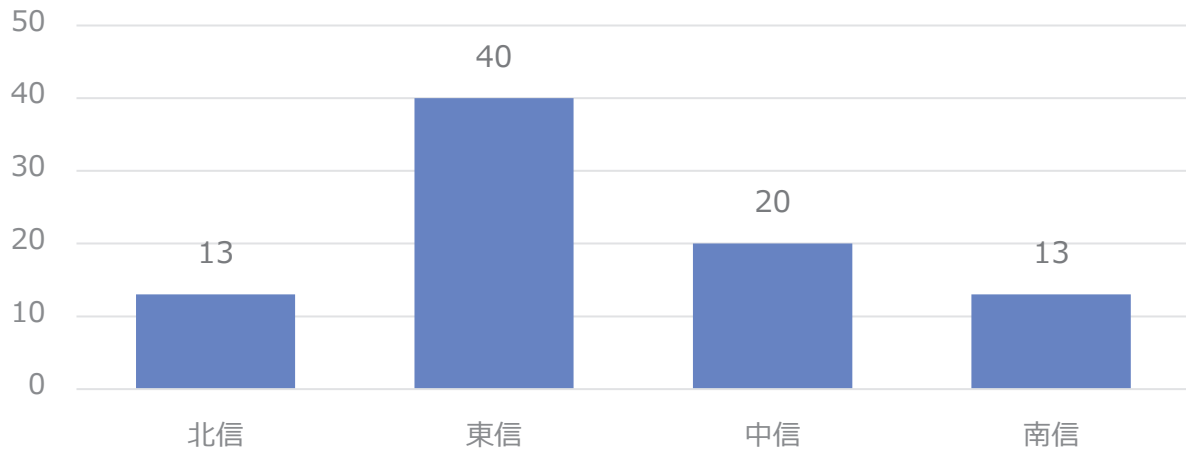


当事者（南信/外国籍）



- ・ 中信エリアでは松本市に外国人が集中する結果となった。
- ・ 南信ではブラジル人の数が多い傾向。

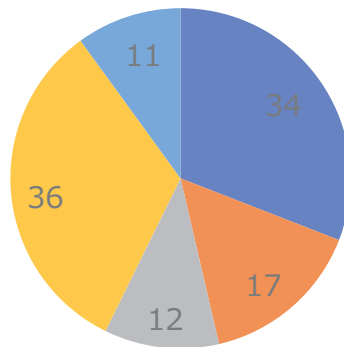
支援者（地域別）



※支援者：夜間中学に通うことを勧めたいと考える方と関係のある方（支援団体・地域の方・保護者など）

・東信の支援者が全体の46%と約半数を占めている。

支援者（知らせたい理由）

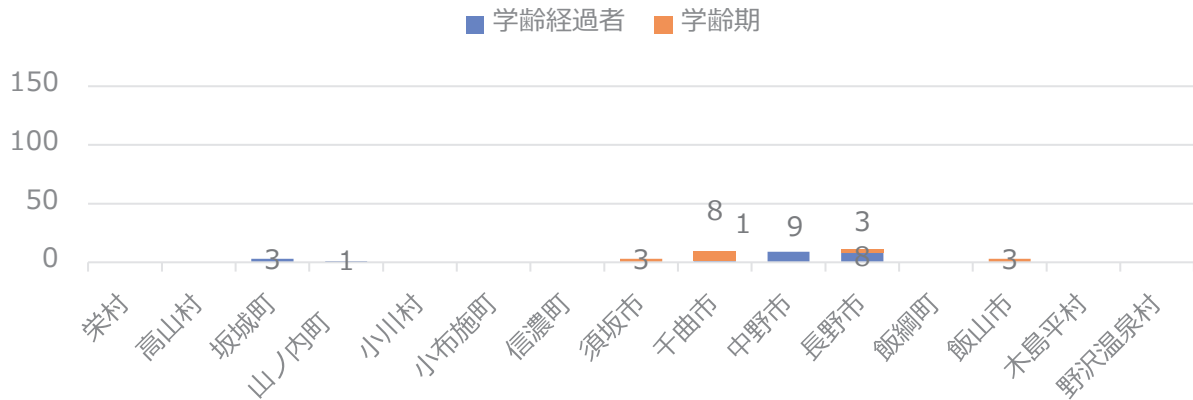


- 外国籍や外国由来の方で、中学校の知識や技能などを学んでほしいから
- 現在不登校や家庭の事情等で中学に通えていないから
- 中学校は卒業したが、もう一度学び直してほしいから
- 中学校は卒業したが、不登校や家庭の事情で中学校にあまり通っていないから
- 中学校を卒業していないから

・需要別に見ると外国籍の方への需要と中学校卒業した方への需要が全体の63%を占めている。

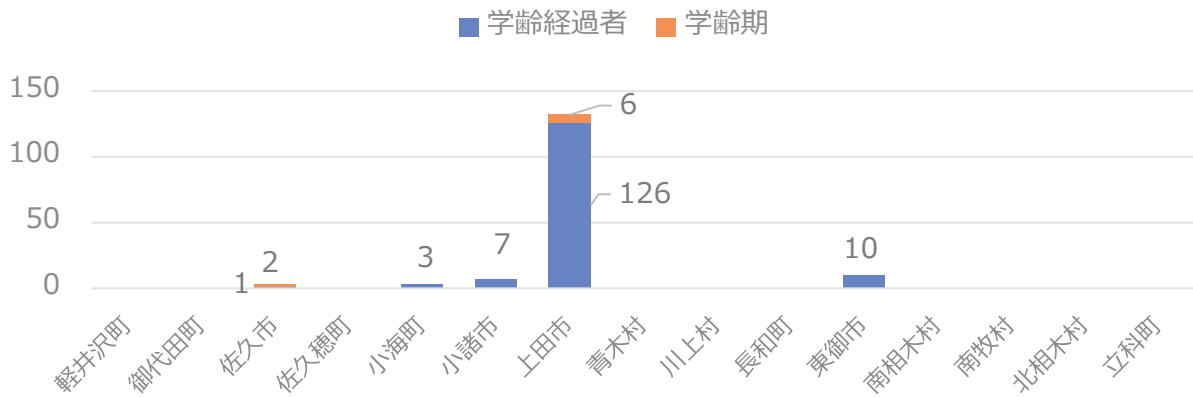
・現在不登校で中学に通えていない層は全体の15%となっている。

当事者 支援者（北信の市町村別 知らせたい人の数）



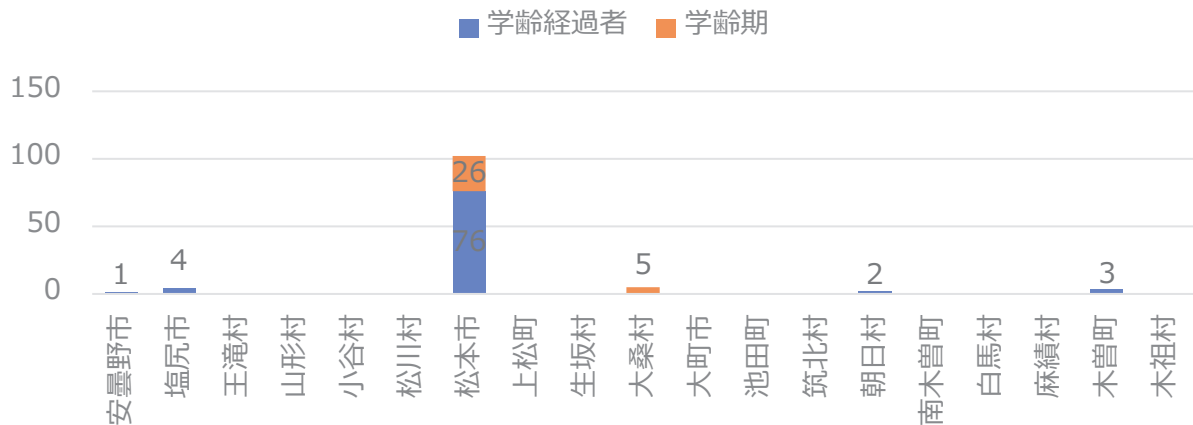
- ・長野市の他、中野市、千曲市に集中している。当事者の市別分布とやや一致している。
- ・中野市、長野市の学齢経過者の割合が高い傾向。

支援者（東信の市町村別 知らせたい人の数）



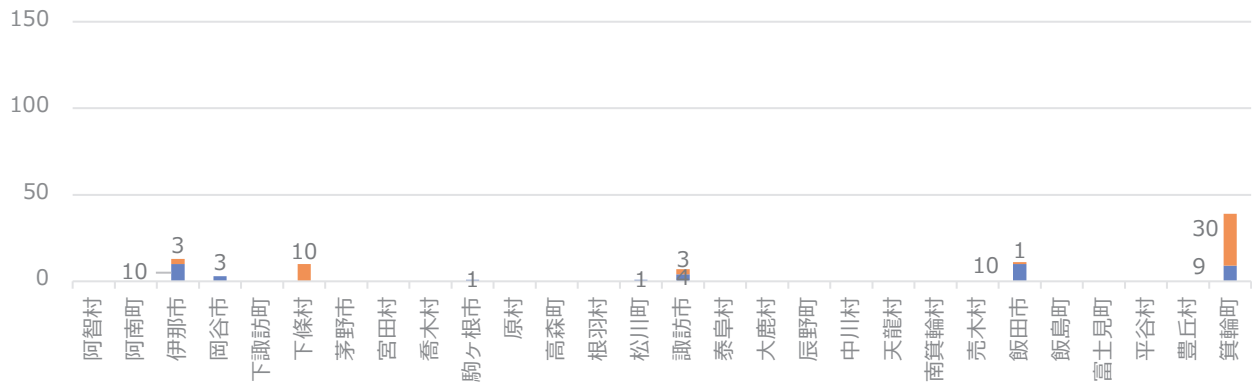
- ・当事者の分布同様、上田市が圧倒的に多い傾向。

支援者（中信の市町村別 知らせたい人の数）



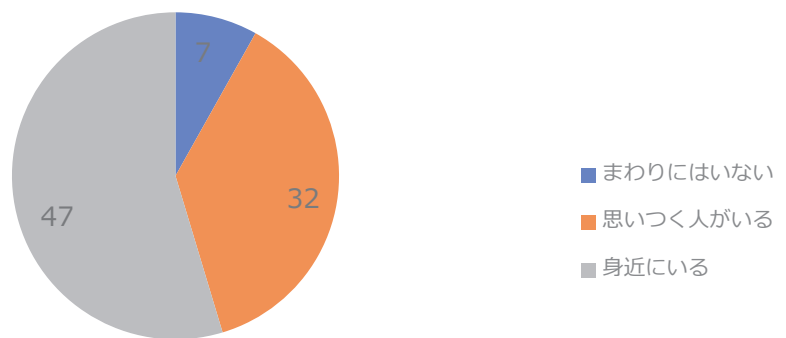
- ・当事者の分布同様松本市が圧倒的に多い傾向。

支援者（南信の市町村別 知らせたい人の数）



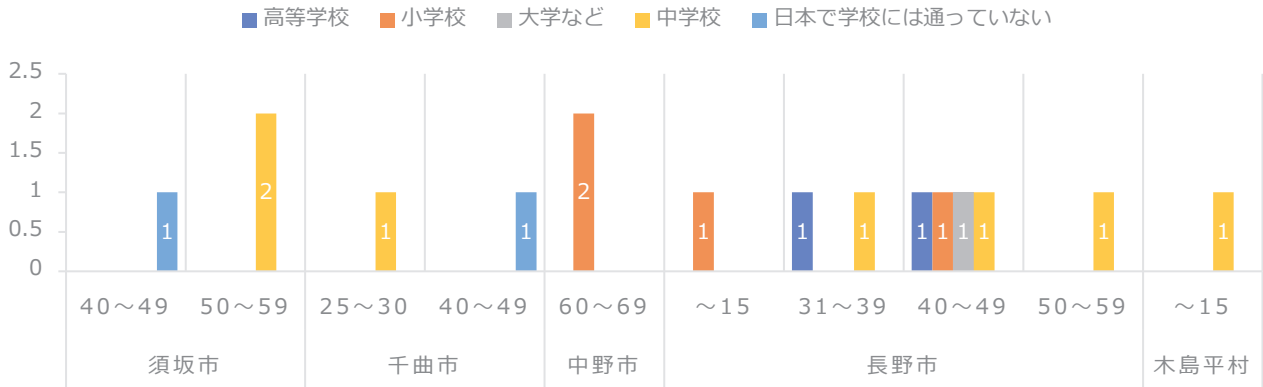
- ・当事者の市別分布と異なり、箕輪町の数が特に多い傾向。
- ・諏訪市、駒ヶ根市、岡谷市は当事者分布では見られなかったが、支援者側ではある程度知らせたい人がいることがわかる。

支援者（夜間中学を知らせたいと思う人）



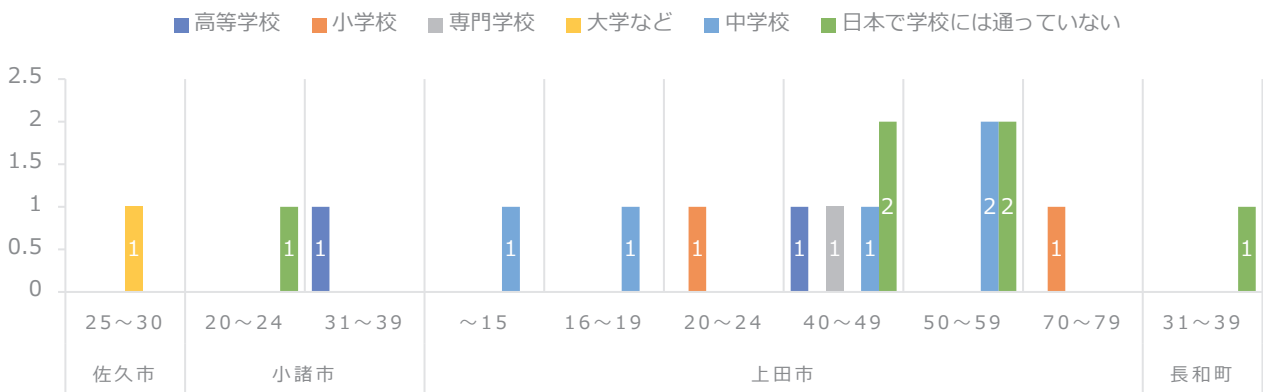
- ・支援者の回答者の55%と半数以上が身近に夜間中学を知らせたいと思う人がいると回答している。

当事者（北信 最終学歴/年齢）



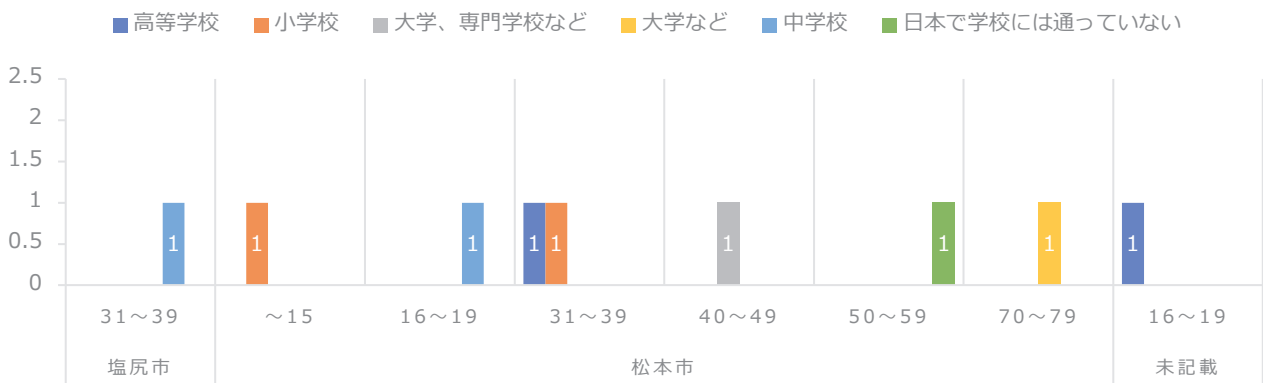
・中野市では60-69歳と高年齢の小学校最終学歴者が目立つ。

当事者（東信 最終学歴/年齢）



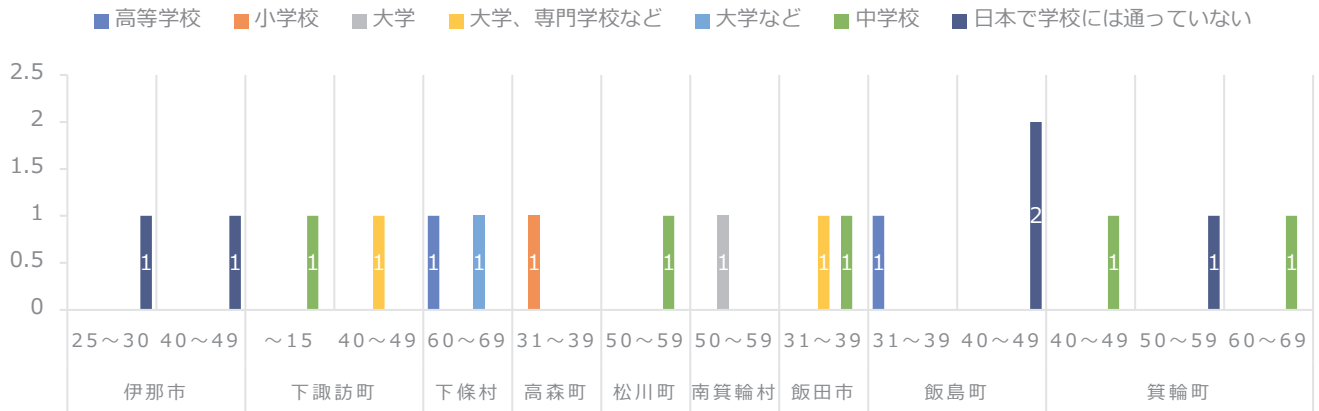
・上田市では40歳以上で学校には通っていないが目立つ。

当事者（中信 最終学歴/年齢）



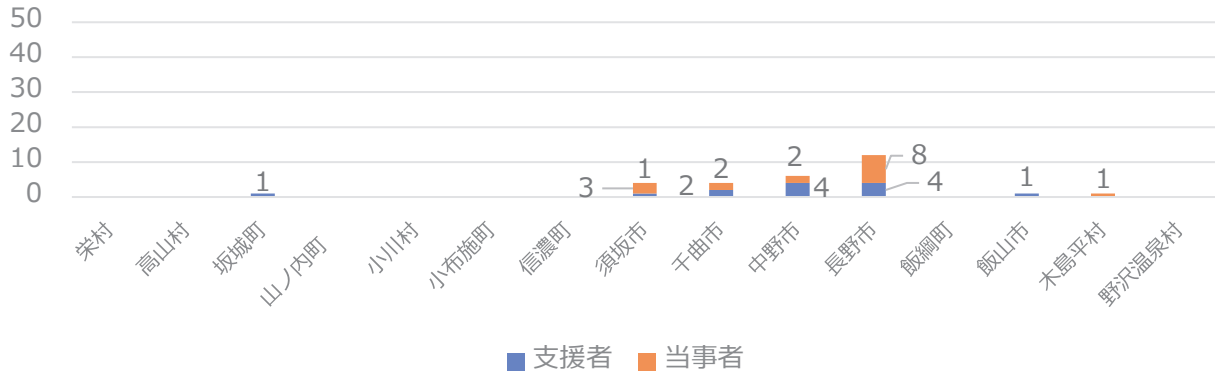
・松本市では70-79歳で大学卒者であるが、夜間中学へのニーズを持っていることがわかる。

当事者（南信 最終学歴/年齢）



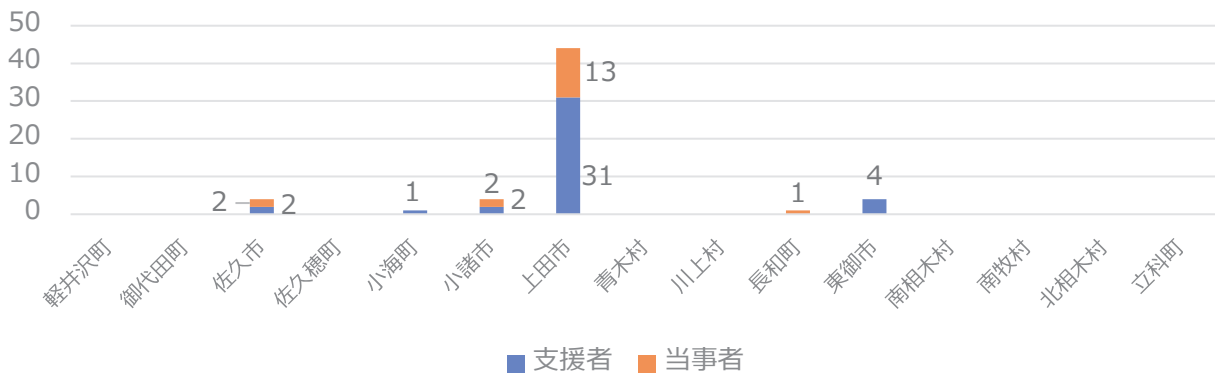
・各エリアで日本の学校には通っていない層があることがわかり、40歳以上がボリュームゾーンである。

当事者 支援者 (北信の市町村別二ーズ)



・当事者と支援者はほぼ同じエリアに集中している傾向。

当事者 支援者 (東信の市町村別二ーズ)



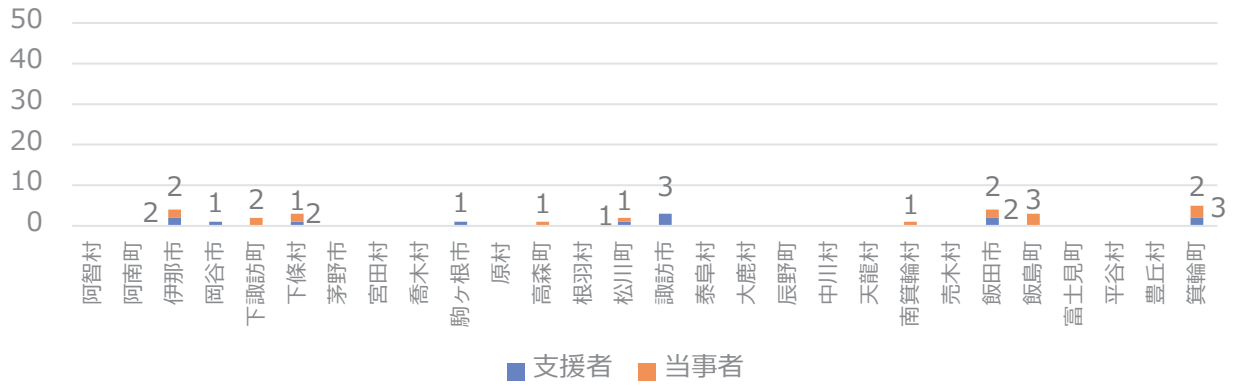
・支援者は上田市に集中している。当事者とのエリアの乖離はあまり見られない。

当事者 支援者 (中信の市町村別二ーズ)



・支援者、当事者ともに松本市に集中しているほか、各地に点在している傾向。

当事者 支援者 (南信の市町村別ニーズ)



- ・諏訪市、飯島町それぞれ支援者と当事者が別々で多い傾向にある。
- ・南信では都市部に一極化せず各地にニーズが分散していることがわかる。

夜間中学のことを知らせたいと思う人	夜間中学についての御意見や期待すること
身近にいる	不登校体験者などは集団が苦手な場合もあるし、外国籍の方も日本語に差があったりヤングケアラーになつてる方もいるので、個別支援もしっかりしてほしいと思います。
身近にいる	障害福祉サービス提供事業の管理者です。知的障害や精神障害のある人にとって養護学校や特別支援学級でも一人の力で継続することが難しい人がいます。学びの機会があることで人生の選択肢が広がる人も多いと思いますが、家族以外の手助けが可能な仕組みがあると良いなと思いました。また子どもが教育の機会を得られるよう家族への支援や応援をする体制も必要だと思います。
身近にいる	とてもとても良い取り組みだと思います。息子2人が現在不登校です。早急に取り組んでいただけると助かります。宜しく願い致します！
身近にいる	学校と言う枠を外れて、様々な人やカルチャーが交流できる場所、気軽に訪れることができる場所、繋がれる場所、ゆるく繋がれる場所であって欲しいと思います。
身近にいる	これからどんどん増えると思う。 行きたくない学校には、行く必要は、ないと思う。 子供たちのためにできる事をどんどんやって下さい。
身近にいる	小さくていいので各地区に作ってください。 本当は学区に1つほしい。自分で通えるように。
身近にいる	当事者からのアンケートを取っても当事者はそれを書けない読めない人もいるので返事することすら出来ずに本当に学び直したい人を把握出来るのかと誤ってしまいます。周りの人が気がつける人がいれば良いですが。
身近にいる	是非とも、作ってほしいです！ せめて圏域ごとには欲しいです。 静岡市の夜間中学が大変よいと聞いています。 不登校児童生徒が、多世代多国籍の人たちと交流できれば、本当に貴重な居場所となるでしょう。
身近にいる	私の知っている人は生まれが中国の高齢の日本国籍の人で、中国で幼少期を過ごしたけれど日本でいう小学校卒業の資格しかなくて、日本に来てから日本の調理師の試験を受けようとしたが受験資格に中学校卒業というのがあって受験できなかったそうでして、夜間中学に行けば中学卒業の資格が手に入るならば、夜間中学のことを教えてあげたいです。
身近にいる	外国籍の方で高校に行きたい希望がある方や不登校で名目上は卒業した方にとって、再チャレンジができる場所が必要です。
身近にいる	ボランティアとして参加出来るのでしょうか？教員資格が無いと出来ないのでしょうか？な
身近にいる	生活日本語は何とか使うことができても、学習に必要な日本語を十分習得できていないために教科学習ができなかった子供たちが多くいる。年齢により、中学校レベルの学習ができないまま卒業させられてしまう。家庭の事情で登校できなかった子どもも。学び直しの必要な子どもたちは増加しているとおもわれる社会人として成長するために必要な、基本となる教育の保障の場が必要である。
身近にいる	松本市にも、外国由来の子どもたちがいます。 まずは、日本語を学ばなければ、生活できません。 学習の場所を是非つくっていただきたいです。

身近にいる	寛容で優しい先生が勉強教えてほしい
身近にいる	今すぐ通わせたい、出来るだけ早くお願いします
身近にいる	長野県は広く通学できる範囲に限られるので、各地域に分校・分室などができて、どの地域の人でも通えたらよりよいと思います。
身近にいる	選択肢が増える事は良いことだと思います
身近にいる	<p>本年3月にも同様のアンケート調査を行い、半年もしないうちに再び実施する県教委の意図がわかりません。また、各市町村教育委員会経由で調査依頼が来ても、不登校特例高校を目指しているのならば、少しは理解できますが主に学齢超過者のための夜間中学に学齢期の義務教育を扱うところから発信されても、対象となる方へこのアンケートが届くのでしょうか。</p> <p>本当は県教委がやる気がない事の表れとってしまいます。</p> <p>外国籍の方々が中学卒業資格、そして本人の努力で高校まで行って正規の就職できる社会に、教育は等しく誰でも受けられる事が当たり前になるよう、どこに学校を設置するか、だれが教えるかなど、役所側の都合ばかりの議論にならない事を願っています。</p> <p>人口減少社会で今後益々、外国籍の方がかぎを握る事を考えると、設置年度は決まっていますので将来に向けた議論をしてください。</p> <p>検討委員会に関わる皆さんのほとんどが教育者です。責務を果たしてください。</p>
身近にいる	<p>永く住む外国籍の皆様の学齢期途中から来日した二世三世にとって日本語と共に中学卒業資格そして就職につながる学習の機会が必要です。</p> <p>16歳から18歳で来日した方にとってもう一度義務教育課程に戻れる機会も必要です。</p> <p>さらに、外国籍の方に限らず、事情がありほとんど通学していない中学を名目上卒業した方々にとって再チャレンジできる機会を作っていただきたい。</p>
身近にいる	上田駅の近くがあると、坂城町・東御市からも通えます。
身近にいる	<p>私の子は、小学生ですが不登校です。</p> <p>田舎は、学校に行かれないと代わりになる居場所、オンライン授業やフリースクール、塾などの学習の選択肢や他者と関わり合いができる場所の選択肢がほぼないことに困っています。</p> <p>親の働き方も難しく、金銭面も負担になっています。</p> <p>夜間学校ができれば、選択肢のひとつとしてありがたいと思います。</p> <p>また不登校の子にも門戸が下がれば、そこのクラブ活動として、パソコン部とか、好きなことを追求できる場所を学校以外の講師の方を募って、できるといいかなと思います。</p> <p>ペーパー教員ですが、個人的にもボランティアとして協力したいと思います。</p>
身近にいる	県内にいくつか開校してほしい。
身近にいる	<p>上田市は外国籍住民の方が多く、定住する方が母国から子どもを呼ぶケースに触れるたび、義務教育での県教委、市教育の対応が現場任せになっています。一番苦しいのは、子どもです。</p> <p>再チャレンジができるかんきょうが必要で、更に16歳から18歳までの学齢超過は学ぶ所がありません。是非、上田市に夜間中学を設置して頂きたい。</p>
身近にいる	<p>娘は中学生の時、学びたい気持ちはあったが、不登校でほとんど通うことができませんでした。通信制高校を卒業したが、機会があれば中学での勉強を学びたい思いがあるようです。</p> <p>不登校の生徒が増える今、それぞれの希望に合った学び方を選べるよう、選択肢が増えることはありがたいことです。</p>
身近にいる	<p>外国籍の方にも日本の学校で学びたい、日常生活・就職先でも困ることがないようにした、こどもたちには高校まで行き、就職してほしいそんな声を多く聞きます。</p> <p>当事者アンケート内容を拝見しました。項目が多すぎる、いくら多言語でのアンケートでも、居住地などの質問は、長くこの地域に住んでいてもわからない、アンケート回答にもお手伝いをしてあげる方が必要です話す聞く力は長く日本に住んでいると習得できますが、アンケートになると読む書く力が必要となっていく。このようなアンケートがまず当事者には届かない。届いても個人の力では難しい。現場の声を聞けるようなアンケートを望みます。</p>

身近にいる	今現在、中1の息子が不登校です。箕輪中学にはフリースクールがありますが、そこに行ったとしても成績がつかません。是非早急な設立をお願いします。
身近にいる	現在、不登校中ですが、なかなか居場所が家しかなく、外へ出ることがありません。知らない人が多いので、もう少し、発信していくと良いと思います。民間の高額な物が多いので、市や県でやって頂ける安価な物があれば助かります。
身近にいる	学校が設置されても、遠方だから、とか、引きこもりで、とか、様々な、事情で通学を断念する人も多いと考えられるので、通信学習も可能にしてほしい
身近にいる	長野市、松本市等に設置されると、南信地区に在住している方には通えません。今回、夜間中学を進めたい方は、下伊那郡在住で日中仕事をしています。南信のニーズは少ないかもしれませんが、希望者が1人でもいればその方が通えるような場所に設置してください。また、通学中の経済的な負担もできます。通学費用の助成や、学用品の給付、給食代等、公的な費用負担をお願いします。
身近にいる	小学校で不登校になっている子どもは通学区の中学校に進むことに様々な不安を感じている。そのような子どもが安心して学習できる場の充実を、夜間中学にも期待する。

思いつく人がいる	<p>学び直しというよりも学校に行けなかつたり行きづらかつたりして居場所を感じられず孤立していく子どもが多いように感じる。なんとか無理して行ったものに疾患や障害に転じたり社会生活へのダメージがあり、それは学齢期に始まっていることわよく目にする。それが自殺数にも無関係ではないのではないのでしょうか。</p> <p>そうした子は家庭の中にままたらない問題も抱えていたり、見えない障害や被害背景を持っていたりすることも多く、そこに丁寧に寄り添う人も必要だと感じる。</p> <p>日中居場所を感じられない子にとって夜の居場所は重要だとも思います。</p> <p>そうしたケアの場としても夜間中学に期待をします。、</p>
思いつく人がいる	<p>不登校や外国籍の子達のための「学び直し」の場が必要だと感じています。ただ彼らの多くはこれまでの「学校教育」には馴染めなかったという背景があるので、そこを払拭できる場であって欲しいです。多様な人が関わられる余地も残しておいていただきたいです。長野県にそういう場ができるととても嬉しいなと思います。</p>
思いつく人がいる	<p>現在不登校のお子さんで原籍校には行けない人や、中学卒業したけど不登校だったので通信制高校の課題をやるのに困難があって学びなおしたいという人なども行けたらいいなと思います。その場合、フルに9教科じゃなくて科目ごとの履修生とかがあったらいいなと思います。</p>
思いつく人がいる	<p>夜間小学校も欲しいです。中学校以上に行けていない子は、だいたい小学校での勉強やコミュニケーションスキルでつまづいています。生活リズムも崩れていて、朝学校に行くことが難しいので、夜間まで行かなくても午後から、とか夕方からだと通いやすいです。</p>
思いつく人がいる	<p>長野県はととてもひろく、移動交通手段もかなり限られています。仮に夜間中学校ができたとして、自家用車のない人が、どうやって通えるだろうかと思います。私がイメージする人たちは、駅から遠いところに住んでいたり、自家用車の利用が限られているようなそういった環境にあります。そういう学習者と想定される人たちが置かれている環境を加味した制度設計をぜひお願いします。</p>
思いつく人がいる	<p>戦後の混乱や不登校など、意図せず学ぶ機会が無くなった方は無償で良い。ただし、好き好んで日本に滞在している外国籍の方も日本国籍者と待遇が同じなのは納得しがたい。(難民の方々は無償でも良いかと)</p>
思いつく人がいる	<p>これからの時代、外国籍の人々をいかに受け入れ共生していくかが問われる時代となるでしょう。夜間中学は日本語教育の場として大いに役立つと確信しております。中信地区に一日でも早く設立してほしいと願ってやみません。</p>
思いつく人がいる	<p>全員に無条件で無償支給の給食があることを望みます</p>
思いつく人がいる	<p>集団が苦手なお子さんに寄り添った支援もして欲しい。夜間中学が全て担うのではなく、様々な機関と連携し、こどもの学びを保障する手立てを考えてもらいたい。</p> <p>そのためには、予算も思いきって投入し、同時に先生方の働く環境も整えて欲しい。</p>
思いつく人がいる	<p>私自身は千葉県の中学校を除籍後、東京都の夜間中学で3年間学び直して卒業しました。現在は長野県内で公立学校教諭として勤務しておりますが、教員を志した経緯や自分の人生の基盤を築けたのは夜間中学の存在あってこそです。長野県での設立に強く期待しております。</p>
思いつく人がいる	<p>夜間中学を通いやすいところに設置して欲しい。その後の進路先、夜間定時制高校を無くさないで欲しい</p>
思いつく人がいる	<p>夜間中学で学んだり、人との関わりを再度構築されて、仲間と一緒に夢や希望が広がり叶いますよう切に願います。</p>
思いつく人がいる	<p>この先、自国で十分な義務教育を受ける機会がなかった外国由来の方が増えるのではないかと考えています。日本語教育にも力を入れた夜間学校が、県内何箇所かに必要ではないかと思います。</p>
思いつく人がいる	<p>不登校の子どもや、学び直しをしたい人が、いつからでも学べる場であってほしい。</p>
思いつく人がいる	<p>中学卒業していない、外国籍など条件を付けず、学びたい人が誰でも行ける夜間中学であってほしい。特に不登校の子達は、夜間なら行けそうという子もいるとおもう。</p>
まわりにはいない	<p>子どもたちの新たなる可能性が伸びる大切な機関なのでぜひ実現してください。</p>
まわりにはいない	<p>困窮者自立支援をしています。また、不登校経験者の保護者でもあります。</p> <p>外国籍の相談者に勧める選択肢の一つとして、夜間中学ができれば素晴らしいと思います。</p> <p>不登校経験者で学びなおしを希望する人のためにも設置を望みます。</p>

総 括

- 今回の調査では北信、東信、中信では主に人口比率の高い都市、長野市、上田市、松本市が多い傾向にありながら、南信では地域ごとにニーズが見られた。南信では各地域にニーズを抱えている当事者が分散していることが見受けられる。
- 外国人ニーズでは東信にやや多く見ることができた。通ってみたいニーズも上田市で特に多く、夜間中学を求める外国人の声が大きいことがうかがえる。
- 支援者のニーズは東信に特に多く見られた。夜間中学を知らせた人数も多く、当事者の調査と比較してもニーズが高い地域と考えられる。
- 当事者、支援者からのものでは都市圏や北信など主要地域のみでの設置ではなく、できるだけ広域に設置して欲しいとの意見が見られた。特に南信では市町村ごとにニーズが分散しており、夜間中学を求める声が広範囲に見られた。

新たな学びの場 設置に向けての市町村アンケート結果

(1) 調査期間

令和5年12月18日(月)から令和6年1月15日(月)

(2) アンケート項目

※以下①～④の設問に関して、市町村教育委員会の考えを「設置に向けた検討をしたい」「設置することは難しい」の中から選択し回答

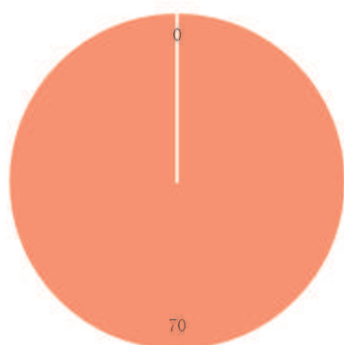
- ① 夜間中学について
- ② 学びの多様化学校について
- ③ 夜間中学校と学びの多様化学校の併設について
- ④ 多様なニーズを包括した柔軟な学校について
- ⑤ ①～④の回答の理由や意見の記述

(3) アンケート回収率

77市町村中70市町村(90.9%)

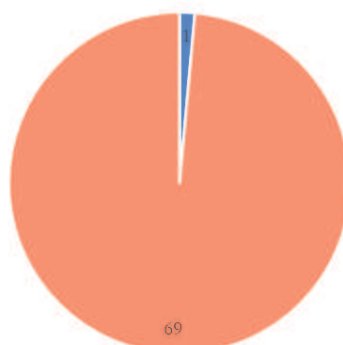
(4) アンケート結果

夜間中学について



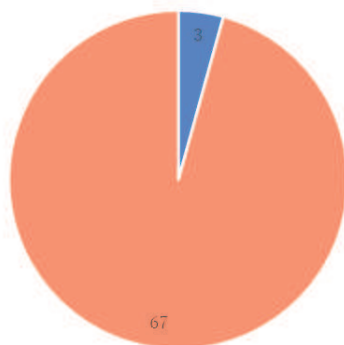
■ 設置に向けた検討をしたい ■ 設置することは難しい

学びの多様化学校について



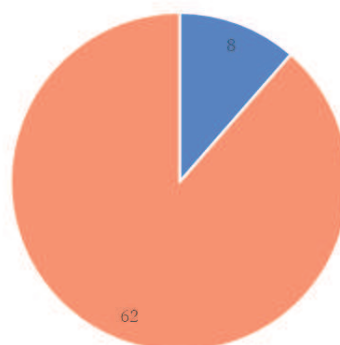
■ 設置に向けた検討をしたい ■ 設置することは難しい

夜間中学校と学びの多様化学校の併設について



■ 設置に向けた検討をしたい ■ 設置することは難しい

多様なニーズを包括した柔軟な学校について



■ 設置に向けた検討をしたい ■ 設置することは難しい

○ 「設置に向けた検討をしたい」と回答した市町村の記述（回答の理由や意見）

- ・不登校などで形式卒業した学び直しのニーズは高いため、何らかの方法で対応できるよう、県と協働で進めていきたい。
- ・既存小・中学校を再編した小中一貫校新設を検討中であり、推進委員会で、多様性に対する支援の必要性が話題に上がっているため、夜間中学校や学びの多様化学校の定義にこだわらず、幅広く検討を進めたい。
- ・教育支援センター（市中間教室）を設けている公共施設の統合が検討されている段階であり、進捗により教育支援センターの今後のあり方を検討する予定がある。
- ・構想段階ではあるが、現在ある市の中間教室を中核として、不登校支援センターとし、不登校の相談や、児童生徒の学習の場としての機能を充実させていきたい。
- ・夜間中学単独では難しいが、学びの多様化学校との併設であれば考えられる。
- ・夜間中学については、域内のみの小規模で検討したい。

○ 「設置することは難しい」と回答した市町村の記述

- ・学齢期の不登校対策を最優先に取り組むため設置は難しい
- ・1についても市による設置は困難。市町村の枠を超え、広域的に生徒を受け入れることを前提とした学校のため県立による設置を強く望みます。
- ・ニーズの把握が必要であり、人材確保や予算措置等設置要件は厳しいものがある。
- ・既存の学校の中での学びの場や、柔軟な学校づくりについては検討している。
- ・夜間中学校設置の無いことと市内学校再編が進行中である為
- ・当市の状況（財政力など）を鑑み、慎重な対応を取らざるを得ません。
- ・夜間中学については、入学を希望する相談や問い合わせ等はありませんので、設置の必要性は感じていません。学びの多様化学校については、職員や施設の確保、運営費や人件費といった財政面での課題もあり、設置は難しいと考えます。現在ある校外中間教室の機能の充実を図っていくことで、引き続き不登校児童生徒の学びの場の確保に努めていきたいと考えます。
- ・設置ニーズの把握ができていない・教員、人の確保 施設の確保 具体的な対象者が不確実
- ・本市は令和7年度からの小規模特認校の設置を目指し各種検討を進めている状況である
- ・現段階で検討しておりません。・ニーズの把握ができていないこと、2については対象者が少数であることから検討に至っていない。学校設置以外の方法で検討を行うことが現実的と思われる。
- ・中学校設置なし。誰一人取り残されない学びの提供のため、設置数、設置場所について良く検討されたい。
- ・あって欲しいという思いはあるが、規模が小さく単独では無理。
- ・必要性は十分感じるが、設置となると小さな町村では難しい面がある。近隣自治体で設置されたら、その周辺自治体からの通学も認めていただきたい。
- ・1 夜間中学については、中学校が組合立ですので、行政での検討が難しいです。多様化学校につきましても同様の理由です。4 小学校については、検討することは必要と思いますが、小学生が少ないので実際は難しいのが現状です。
- ・本村は1村1校の小さな規模であるため難しいと考えています。

- ・ニーズの把握は進めていきたいが、現状施設設置を検討できるような段階ではない。
- ・村教育支援センター、学校内中間教室等で一応対応ができています。
- ・夜間中学、多様化学校とも設置の必要性は感じていますが、村内でどの程度のニーズがあるか、また財政的にかなり現在は厳しいため、設置は難しいと感じています。
- ・小規模な町村では難しいが、広域や組合立で考えられないか。学校の統廃合とセットで考えるには時間が必要。
- ・現時点では、需要がない。
- ・夜間中学等の利用を希望する方がいないため・希望者が少数であり、予算確保も困難。
- ・現在のところ設置については上記回答の通りだが、今後、ニーズや実情に応じて検討していく必要性が生じていくと思われる。
- ・小規模な村のため新たに学校を設置するのは難しく現在ある学級の中での支援を考えているため
- ・小、中学校で多様なニーズに対応していきたい。
- ・人員の確保が難しい
- ・町内小中学校は小規模のため、新たな学校を創造するのではなく、ニーズに合った小中学校のあり方を検討していきたいと考える。
- ・山間へき地の小規模校の当村においては、教員確保もままならない状況下での複数の学校運営は困難
- ・希望者がいないため。
- ・小規模自治体であり、実施するための体制整備が現時点では難しいものと考えます。またニーズの把握も行っていません。なので、単村ではなく広域的な設置が望ましいと思われます。
- ・小規模自治体で職員数も少なく、設置や運営にかかる事務執行が難しい。
- ・本年度ようやく中間教室を開設することでできた。柔軟な学校が設置できればよいが現時点では難しいと思われます。・運営費
- ・施設整備費・人件費等が生じるため設置は難しい
- ・人員が不足しているため。また不登校児童の家庭へは定期的に連絡をとり今後や学校への要望など聞き取りを行い出来ることはやっていると自負している。
- ・村単独での設置は難しい。(広域で設置を検討)・ニーズの少なさ、運営体制構築の難しさなどから設置は難しい。
- ・夜間中学は現在対象者がおらず、不登校児童生徒もほとんどがフリースクールや通信等を活用しており、設置となっても利用者が少数であることが見込まれ、維持することが困難と予想されるため。
- ・需要があれば検討となるが、要望等がない。また、村単独では人員確保も難しい。
- ・体制づくりが困難なため。

令和5年度

学びの多様化学校設置に関する意見交換のまとめ

不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会

事務局 長野県教育委員会事務局心の支援課
長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課

目次

1 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会の趣旨	1
2 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会の構成メンバー	1
3 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会の概要	1～3
(1) 第1回懇談会	
(2) 第2回懇談会	
(3) 第3回懇談会	
(4) 意見交換の場で行われた主な意見	
4 まとめ	4

1 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会の趣旨

不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会は、不登校支援に係る学識経験者や民間の支援団体、市町村教育委員会の代表者が、県内の不登校支援のあり方に関して幅広く懇談するために設置されたものである。特に令和5年度は、学びの多様化学校（不登校特例校）のあり方を含め、不登校児童生徒等の学びの継続支援について意見交換を行った。

2 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会の構成メンバー

座長：荒井 英治郎（信州大学教職支援センター准教授）

委員：甘利 由美恵（不登校児を応援する保護者の会チャレンジP—Smile 顧問）

市川 寛（寺子屋TANQ代表）

岩田 清美（EXPO-Jルーム代表）

直井 恵（うえだ子どもシネマクラブ）

近藤 守（長野県市町村教育委員会連絡協議会会長）

三輪 晋一（諏訪市教育長）

蓑輪 勝枝（長野県小学校長会）

赤羽 文恵（長野県中学校長会）

3 不登校児童生徒等の学びの継続支援に関する懇談会の概要

(1) 第1回懇談会

① 日時：令和5年6月9日（金） 10:00～12:00（オンライン開催）

② 委員に対する説明

【概要】

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要があると認められる場合、特定の学校において教育課程の基準によらずに特別の教育課程を編成することができるとする特例措置によって文部科学大臣から指定された学校である（令和5年8月に「不登校特例校」から「学びの多様化学校」に改称）。

【現状】

- 設置形態：新たに学校を設置する「学校設置型」と既存の学校に設置する「分教室型」がある。
- 設置状況：全国で9市2区の教育委員会が公立の学びの多様化学校を設置（令和5年4月1日現在）
- 夜間中学に学びの多様化学校を併設している学校は、2校（令和5年4月1日現在）
 - ・三豊市高瀬中学校（香川県）：1学級2名
 - ・京都市洛友中学校（京都府）：各学年1学級（3学級）15名

【期待される効果】（文部科学省「不登校特例校の設置に向けて（手引き）」より）

- 年間の総授業時間数を減らすことが可能であり（通常1015時間→750～770時間程度）、開始時間や1日の授業時間を柔軟に設定できること。
- 個別、小集団での活動より、基礎学力の定着や社会性の育成が図られるようになること。

【設置に向けた課題】（県教育委員会による視察結果から）

- 対面での学習活動が基本であり、児童生徒には学校への登校が求められること。
- すべての教科の教員を確保しなければならないだけでなく、個別支援等のための教職員の配置も不可欠であるため、県・市町村ともに人材確保とそのため予算措置が必要となること。

【設置状況】（令和5年4月1日現在）



出展: 文部科学省ホームページ「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置者一覧」より
(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1387004.htm)

(2) 第2回懇談会

① 日時: 令和5年11月28日(火) 13:00~15:00(オンライン開催)

② 夜間中学と学びの多様化学校の併設の提案

- ・夜間中学設置検討会議(長野県教育委員会事務局義務教育課主催)の第2回会議(11月16日開催)において、広く学びを必要としている人々のため、何らかの事情で義務教育を修了していない人たちや外国籍の方等が学ぶ「夜間中学」に、学びの多様化学校の併設も含めて検討してはどうかという意見が出されたことを委員と共有。
- ・学びの多様化学校と夜間中学の仕組みを確認した上で、学びの多様化学校の併設も含めた夜間中学の設置についての意向調査を、市町村教育委員会に行う予定であることを委員と共有。

(3) 第3回懇談会

- ① 日時：令和6年2月8日（木） 10:00～12:00（オンライン開催）
- ② 「新たな学びの場 設置に向けての市町村アンケート」（令和5年12月実施）の結果の共有と意見交換のまとめ案の検討
 - ・「新たな学びの場 設置に向けての市町村アンケート」（令和5年12月実施）結果の共有
 - ・「令和5年度学びの多様化学校設置に関する意見交換のまとめ（案）」についての検討

(4) 懇談会の意見交換の場が出された主な意見

<第1回懇談会>

- ・不登校特例校（学びの多様化学校）の実践が、既存の学校にも良い影響を与え、学びのあり方や人権に配慮したよりよい教育活動に変わっていくことを期待している。
- ・不登校特例校（学びの多様化学校）は、不登校児童生徒の学びの場の選択肢を広げるという意味では非常によい。保護者に費用負担を求めない学びの場の選択肢が一つ増えることにもつながる。
- ・不登校特例校（学びの多様化学校）を設置する際に、市町村が負担することになるランニングコストや、県の支援メニュー等について、市町村教育委員会に具体的に示す必要がある。

<第2回懇談会>

- ・夜間中学も学びの多様化学校も、子どもや学びたい方の学習をどのように保障していくことができるかが重要となる。多くの方々のニーズに応えていくためには、長野県として、まず必要とする方々の学ぶ場の保障から優先していくべきであると思う。
- ・学校が、だんだんフレキシブルでインクルーシブな環境になっていくことで、社会全体もフレキシブルでインクルーシブな環境になっていくことが目指すべき方向なのではないかと思う。
- ・新しい学びの形、あり方を示す点において、学びの多様化学校をぜひ作っていただきたい。

<第3回懇談会>

- ・学びにアクセスできない子どもをなくすためにも、夜間中学と学びの多様化学校の併設も含め、不登校児童生徒の学びが保障されるインクルーシブでフレキシブルな「新たな学びの場」を創造していくための検討を進める必要がある。
- ・学びの多様化学校を含めた「新たな学びの場」の設置に向けて、県と市町村が教職員配置や施設整備等必要な環境づくりの基準、国や県の財政支援のあり方等について、共に制度設計を行っていく必要がある。
- ・不登校児童生徒等や保護者等の当事者、支援者の思い・願いや意見も取り入れながら、「新たな学びの場」を創造してほしい。
- ・「新たな学びの場」を設置するに当たっては、通学距離、卒業後の進学等、保護者の負担や心配に十分に配慮し、子どもが安心して通うことができる学校にしてほしい。
- ・「新たな学びの場」が長野県内に設置されることで、子ども一人一人が自分のペースで学ぶことができるような多様な学びが保障されたり、様々な立場の人が多様な学びの場や教育活動に関わっていくこと等を実現したりしていくことで、その取組が他の学校にも波及していくことを期待したい。

4 まとめ

- (1) 不登校児童生徒等の学びの継続支援も含め、すべての児童生徒にとってインクルーシブでフレキシブルな学びの場を創造していくことが重要である。そのため、夜間中学設置検討会議での議論も踏まえて「新たな学びの場」の設置に向けた検討を進める必要がある。
- (2) 「新たな学びの場 設置に向けての市町村アンケート」(令和5年12月実施)の結果を踏まえ、多様な学校の設置検討の意向がある市町村等と共に、「学びの多様化学校」「夜間中学と学びの多様化学校の併設」「多様なニーズを包括した柔軟な学校」等、様々な選択肢や可能性を考慮しながら、「新たな学びの場」の制度設計を行う必要がある。
- (3) 不登校児童生徒、保護者、支援者等の思いや願い、意見も取り入れながら、「新たな学びの場」を創造していくことが重要である。